

放課後等デイサービスと
特別支援学校・学級の連携
～情報共有のニーズに焦点を当てて～

2023 年度 卒業論文

氏名 青木 彩恵

目次

序章	1
第1章 放課後等デイサービスの概要	2
第1節 放課後等デイサービスとは	2
第2節 放課後等デイサービスの現状と課題	3
第3節 先行研究に見る放課後等デイサービスと学校の連携状況と課題	4
第1項 連携の必要性に関する双方の認識	4
第2項 情報共有の経験と内容	4
1. 連携の実施について	4
2. 情報共有の方法	4
第3項 個別支援計画の策定	5
第4項 連携の困難さに関する双方の認識	6
第2章 調査の概要と方法	6
第1節 調査の概要	6
第1項 調査目的と内容	6
第2項 調査先の放課後等デイサービスについて	7
第2節 調査の方法	8
第1項 調査対象と調査方法	8
第2項 倫理的配慮	9
第3章 結果と考察	9
第1節 対象者の特性	9
第2節 情報共有の経験・方法について	10
第1項 質問紙調査の結果	10
第2項 インタビュー調査の結果	11

1. 送迎の引き継ぎ	11
2. 電話	15
3. 書面	16
4. 保護者経由	17
5. カンファレンス等	19
6. その他の方法	19
第3節 所属学校のスケジュールに関する情報共有について	21
第1項 質問紙調査の結果	21
第2項 インタビュー調査の結果	22
第4節 支援方法・状況に関する情報共有について	23
第1項 質問紙調査の結果	23
第2項 インタビュー調査の結果	24
1. 食事の支援	24
2. 排泄の支援	25
3. 更衣の支援	27
4. 移動の支援	28
5. 強度行動障害等の支援	28
6. 意思表示の支援	28
第5節 障害特性や健康状態に関する情報共有について	29
第1項 質問紙調査の結果	29
第2項 インタビュー調査の結果	29
1. 服薬	30
2. 発作	30
3. 発病・発熱・排泄状況等、体調	30
第6節 学校のホームページについて	32
第1項 質問紙調査の結果	32
第2項 インタビュー調査の結果	32
第7節 その他共有の必要性を感じる情報等	33
第1項 質問紙調査の結果	33
第2項 インタビュー調査の結果	33

1. 家庭での子どもの様子	34
2. 家庭のこと	34
3. 放課後の様子	34
4. 支援計画	34
5. その他の語りとニーズ	35
第4章 情報共有のニーズと今後の連携の在り方	40
第1節 連絡帳の一体化	40
第2節 支援計画の共有	41
第3節 見学の実施(ホームページの活用)	42
第4節 放課後等デイサービスに関する理解の促進	43
終章	44
謝辞	45
引用・参考文献	45
付録	48
付録1 依頼状	48
付録2 調査に関するQ&A	49
付録3 調査票	50
付録4 グループインタビュー逐語録	55

序章

本論文は、放課後等デイサービス職員が特別支援学校又は特別支援学級に対してどのような情報共有のニーズを抱いているのかを明らかにすることを通して、今後の放課後等デイサービスと学校との連携の在り方について検討することを目的とする。

2018年3月、文部科学省と厚生労働省の両省により『家庭と教育と福祉の連携「トライアングル」プロジェクト報告～障害のある子と家族をもっと元気に～』が示された。ここでは、学校と障害児通所事業所等との相互理解の促進や、保護者も含めた情報共有の必要性が指摘されている(文部科学省 2018)。その中で、教育と福祉の連携に係る課題として、「各地方自治体において学校と障害児通所事業所等の所轄部署が異なるため、子どもに必要な支援情報が双方の現場で共有されにくい」、「放課後等デイサービスについて、教職員の理解が深まっておらず、小・中学校から放課後等デイサービス事業所への送迎時において、子どもの状態などの情報提供をはじめとする学校の協力が得られにくい」、「学校の制度や校内の体制等について放課後等デイサービス事業所の理解が進んでいないため、放課後等デイサービス事業所から学校に対し必要な連携や協力の内容に関する説明が十分になされず、学校側は何を協力したらいいのか分からない」等の現状が報告された(文部科学省 2018)。

また、厚生労働省が策定する『放課後等デイサービスガイドライン』においても、学校と放課後等デイサービスが役割分担を明確にし、積極的に連携を図る必要性が指摘されている(厚生労働省 2015: 13)。具体的には、「保護者の同意を得た上で、学校に配置されている外部との関係機関・団体との調整の役割を担っている特別支援教育コーディネーター等から個別の支援計画等についての情報提供を受けるとともに、放課後等デイサービス事業所の放課後等デイサービス計画を特別支援教育コーディネーター等へ提出する」、「学校の行事や授業参観に積極的に参加する等の対応をとることが望ましい」等の記載がある(厚生労働省 2015: 13)。

このように、「学校と放課後等デイサービスの連携」に関連する様々な指針が存在する中で、自身の実体験として学校と放課後等デイサービスの連携不足に直面してきた。例えば、放課後等デイサービスでアルバイトをする中で「学校との情報共有の不足」を感じる場面に出会ってきた。また、特別支援学校でボランティアをする中で「放課後等デイサービスとの引継ぎの希薄さ」を感じてきた。

そこで、本研究では特別支援学校又は特別支援学級と放課後等デイサービスとの情報共有に焦点をあて、放課後等デイサービス職員を対象としたグループインタビューを実施す

ることによって現状とニーズを明らかにし、双方の連携をめぐる課題と方策について検討する。

本論文の構成は次の通りである。第1章では、放課後等デイサービスの概要と課題について、『放課後等デイサービスガイドライン(厚生労働省 2015)』や先行研究を参考に述べる。第2章では、実施した調査の概要や方法について述べる。第3章では、調査の結果を示し、考察を行う。第4章では、調査により明らかになった情報共有のニーズや連携課題を整理し、今後の放課後等デイサービスと学校との連携の在り方について検討する。終章では研究のまとめと結論を述べる。

第1章 放課後等デイサービスの概要

第1節 放課後等デイサービスとは

放課後等デイサービスは、2012年4月に児童福祉法に位置づけられた支援である(厚生労働省 2015: 1)。児童福祉法第6条の2の2第4項の規定に基づき、学校(幼稚園及び大学を除く)に就学している障害児に、授業の終了後又は休業日に、生活能力の向上のために必要な訓練、社会との交流の促進その他の便宜を供与することとされている(厚生労働省 2015: 2)。

放課後等デイサービスガイドラインによれば、放課後等デイサービスは「子どもの最善の利益の保障」、「共生社会の実現に向けた後方支援」、「保護者支援」という3つの基本的役割を有している(厚生労働省 2015: 2)。放課後等デイサービスの対象は、心身の変化の大きい小学校や特別支援学校の小学部から高等学校等までの子どもであるため、この時期の子どもの発達過程や特性、適応行動の状況を理解した上で、コミュニケーション面で特に配慮が必要な課題等も理解し、一人ひとりの状態の即した放課後等デイサービス計画(=個別支援計画)に沿って発達支援を行う(厚生労働省 2015: 4)。この個別支援計画に沿って、「自立支援と日常生活の充実のための活動」、「創作活動」、「地域交流の機会の提供」、「余暇の提供」の4つの基本活動を複数組み合わせる支援を行うことが求められている(厚生労働省 2015: 5)。

子どものニーズに応じた適切な支援の提供のために、適切な規模の利用定員を定めることや適切な職員配置を行うことが必要とされ、指導員又は保育士、児童発達支援管理責任

者、機能訓練担当職員(機能訓練を行う場合)の配置が必須となっている(厚生労働省 2015: 7)。

第2節 放課後等デイサービスの現状と課題

2022年8月時点で放課後等デイサービスは全国に1万9178か所の事業所を展開し、利用者数は30万1837人に上る(厚生労働省 2022:8)。2012年の事業開始以来、事業所数、利用者数ともに増加を続けている(厚生労働省 2022:9)。発達障害の認知の広がりや女性の就業率の上昇に伴う預かりニーズの増加により、児童発達支援や放課後等デイサービスのサービス量が大きく拡大している一方で、質の確保が重要な課題となっている(厚生労働省 2021: 5)。

厚生労働省はこのような課題に対し、「公費により負担する障害児通所支援の内容として相応しいかを検討する必要がある場合」として、「見守りだけで個々の障害児に応じた発達支援がなされていない場合」、「学習塾のような学習支援のみとなっている、ピアノや絵画のみの指導となっている等、必ずしも障害特性に応じた専門性の高い有効な発達支援と判断できない場合」、「サービス提供から見て障害のない子どもであれば私費で負担している実態にあるような内容の場合」(厚生労働省 2021: 8)を挙げた。

また、2021年12月16日に厚生労働省から報告された「障害者総合支援法改正法施行後3年の見直しについて 中間整理」では、放課後等デイサービスの在り方として、「総合支援型(仮称)」と「特定プログラム型(仮称)」の2つを位置づける方向での検討がなされている。この2つのうち、『特定領域の支援のみを提供するのではなく、アセスメント及び個別支援計画の策定プロセスから個々の障害児の状況・発達過程・特性等に応じた日々の支援の中で、5領域(「健康・生活」「運動・感覚」「認知・行動」「言語・コミュニケーション」「人間関係・社会性」)全体をカバーした上で、特に重点を置くべき支援内容を決めていく「総合支援型」(仮称)を基本型とする方向で検討する必要がある。』(厚生労働省 2021: 8)とされている。そして、『その上で、特定領域のプログラムに特化した支援のみを行う事業所の場合でも、専門性の高い有効な理学療法、作業療法、言語療法等の発達支援については、「特定プログラム型」(仮称)として位置づける方向で検討する必要がある。』(厚生労働省 2021: 8)と提言されている。

第3節 先行研究に見る放課後等デイサービスと学校の連携状況と課題

第1項 連携の必要性に関する双方の認識

特別支援学校と放課後等デイサービスの連携状況を明らかにした研究はいくつか散見される。西原らは千葉県内の知的特別支援学校教諭に質問紙調査を行い、教員の多くが放課後等デイサービスとの情報交換・連携は必要であると認識していることを明らかにした(西原他 2018)。その理由に対する自由記述では、「学校とデイで指導・支援の一貫性を持たせることができる」、「児童生徒理解が充実する」、「デイ利用の増加に対応する必要がある」、「児童生徒の生活の質が向上する」、「家庭支援が充実する」などのカテゴリーが抽出された(西原他 2018)。同様に、特別支援学校教諭を対象とした式本らの調査では、「放課後等デイサービスとの連携を望むか」という質問に対して、9割が「望む」と回答している(式本・古井 2021)。その理由に対する自由記述では、「連携・協力しやすい環境づくりを行うため」、「共通理解を図るため」という回答が多かった(式本・古井 2021)。

渡邊らの調査では教員と放課後等デイサービスの双方に質問紙調査を行っているが、双方ともに大部分の回答者が連携は必要であると認識していることが明らかになっている(渡邊他 2021)。その理由として、双方ともに多かった回答は「指導・支援の一貫性を持たせるため」、「児童生徒理解を充実させるため」であった(渡邊ら 2021)。

第2項 情報共有の経験と内容

1. 連携の実施について

連携の必要性が認識されている一方で、十分な連携がされているとは言い難い実態がある。渡邊らの調査では連携の実施について特別支援学校教諭と放課後等デイサービス職員から回答を得ているが、双方とも「充分に行われている」という回答は2割以下であり、「どちらともいえない」という回答が大半を占めている(渡邊他 2021)。式本らの調査においても、「現状において、学校と放課後等デイサービスとの連携は行われているか」という質問に対し、48.6%が「感じる」、40%が「感じない」と回答している(式本・古井 2021)。

2. 情報共有の方法

情報共有の方法として主要なものは「学校送迎時における引継ぎ」である。特別支援学校教諭、保護者、放課後等デイサービス責任者を対象とした香野の調査では、情報交換の方法として「引き渡し時に口頭で行う方法」がもっとも多く、次いで「保護者を通じた交換」が多いことが明らかになっている(香野 2021)。また、子どもたちが平日に放課後等デイサービスを利用する場合、放課後等デイサービスが迎えに行くことがほとんどであり、ごく短時間に情報交換がなされていることを明らかにした(香野 2021)。伝えられる内容は、発作などの体調の様子や心理的な状態、排泄・食事の様子などが主である(香野 2021)。

渡邊らの調査では「学校への迎えの時に、子どもの様子などについて直接会って情報交換する」という方法の平均回答得点がそれぞれ最も高くなっている(渡邊他 2021)。一方で平均回答得点の差が大きかったものは「緊急時の対応について確認している」、「定期的に話し合いの機会を持っている」、「連絡ノートを用いて学校・放デイでの子どもの様子等について情報交換する」、「学校行事・下校時刻の変更などの連絡を直接知らせている」であり、それぞれの機関による対応差が示唆された(渡邊他 2021)。

西原らは、千葉県内の知的障害特別支援学校において 97%の学校が放課後等デイサービスとの連携担当者を置いており、97%の学校が放課後等デイサービス職員が学校見学をする機会を設けていることを明らかにした(西原他 2018)。一方、式本らの調査では放課後等デイサービスへの見学経験がないと答えた教員が半数以上であった(式本・古井 2021)。双方の機関への訪問や見学に関しては学校差や地域差があることが推測される。

第3項 個別支援計画の策定

特に進んでいない連携事項として個別支援計画がある。西原らの研究では、個別の教育支援計画もしくは個別の指導計画を放課後等デイサービスに提供することがある学校は 17%、放課後等デイサービスが作成している個別の支援計画の提供を受けることがある学校は 21%であった(西原他 2018)。知的障害特別支援学校小学部教員を対象とした松山の調査においても、7割程度が「共同で作成していない」と回答している(松山 2021)。さらに、式本らの調査においても、80%以上の教員が放課後等デイサービスの作成した個別支援計画を見た経験がないと回答している(式本・古井 2021)。放課後等デイサービス職員を対象とした中村らの調査においても、個別支援計画の共有は進んでいないことが数値と

して表れている(中村・津田 2020)。

第4項 連携の困難さに関する双方の認識

連携の困難要因について、特別支援学校教諭を対象とした西原らの研究における自由記述からは「情報交換・連携を行う時間を確保すること」、「個人情報保護すること」、「デイによって意識や支援内容に差があること」、「保護者とデイの契約であること」等のカテゴリーが抽出された(西原他 2018)。松山の調査では「時間を確保すること」に次いで「放課後等デイサービスによって支援の仕方が違うこと」が挙げられている(松山 2021)。式本らの調査では、「情報共有の機会が少ない」、「保護者との契約で関与が難しい」、「時間の確保」、「個人情報の保護が難しい」等の回答があった(式本・古井 2021)。

特別支援学校教諭と放課後等デイサービス職員双方を対象とした渡邊らの調査では「時間を確保できていない」、「学校の職員によって情報交換・連携のしやすさが異なる」という回答が多く得られている(渡邊他 2021)。また、放課後等デイサービス職員を対象とした中村らの調査では「特別支援学校は連携について先生の意欲が高い」という回答に対して「通常級や支援級の先生は連携に応じてくれない」という回答がみられた(中村・津田 2020)。

第2章 調査の概要と方法

第1節 調査の概要

第1項 調査目的と内容

前章で取り上げたように、放課後等デイサービスと特別支援学校又は特別支援学級との連携の実態や課題に迫る研究はあるものの、具体的な情報共有のニーズに迫る研究は管見ながら見当たらなかった。また、研究方法として質問紙調査が採用されることが多く、インタビュー調査を採用した研究が少なかった。そこで、放課後等デイサービス職員を対象にグループインタビューを実施し、情報共有の現状や課題を把握するとともに、具体的な情報共有のニーズを明らかにすることを通して今後の放課後等デイサービスと学校との連携の在り方について検討することを目的とした。

なお、本論文では、「情報共有のニーズ」について、学校での子どもの体調不良や事故など放課後等デイサービス職員にとって「不可欠」と考える情報から、「できれば共有してほしい、教えてほしい」といった「期待や要望」を含む情報まで、幅広く捉えることとした。多くの場合、前者の双方にとって必要不可欠である情報共有はなされていると予想される。一方、後者の「できれば」「可能ならば」という情報にこそ共有の課題があると考えられる。そこで、本研究においては、インタビューで得られた語りの文脈も含めて、込められたニーズを読み取ることにした。

第2項 調査対象の放課後等デイサービスについて

首都圏 A 市内に所在する、ある放課後等デイサービスを対象とした。放課後等デイサービスの提供主体は、社会福祉法人から株式会社まで様々であるが、調査先は社会福祉法人を主体とした事業所である。当該事業所は 2015 年の開所以来、小学 1 年生から高校 3 年生までの障害をもった児童を対象に活動している。現在は 5 つの事業所(以下、事業所 a、b、c、d、e と表記する)を運営し、共通の理念のもとでそれぞれに特色のある活動を行っている。当該事業所は筆者がボランティアを経てアルバイトとして約 3 年間お世話になっており、一定の信頼関係を得ていることから調査を依頼した。

当該事業所はいわゆる「総合支援型」の立場を取り、多様な障害や難病を持つ児童の利用を受け入れている。利用児童の多くは知的障害や発達障害の診断を受けており、市内の特別支援学校又は特別支援学級に通学している。放課後等デイサービスガイドラインに記載されている 4 つの基本活動に照らして活動を紹介すると、「自立支援と日常生活の充実のための活動」としては基本的な日常生活動作の支援はもちろん、様々な遊びを通して集団への適応支援や余暇活動の充実に向けた活動を実施している。「創作活動」としては日頃から外出活動の機会を設け、季節の変化に興味をもてるようにしたり、季節に合った創作活動を実施したりしている。「地域交流の機会の提供」としてはボランティアや保育実習生を積極的に受け入れたり、当該法人の有する高齢者施設との世代間交流を実施したり、法人の有する菜園でみかん狩りや野菜の収穫等の活動を実施している。「余暇の提供」としては子どもが望む遊びを選択できるよう、多様な手段や活動を用意している。日頃のレクリエーションや夏場の水遊びの実施、足浴や選べるおやつを提供、貸出玩具や絵本の充実なども「余暇の提供」に含まれる。

第2節 調査の方法

第1項 調査対象と調査方法

5事業所それぞれに配属されている「児童発達支援管理責任者」の7名に調査を依頼した。児童発達支援管理責任者は個別支援計画の作成や関係機関との連携窓口を担っており、情報共有の経験が豊富であることから、調査対象として適任であると考えた。

調査方法はインタビューガイドに基づくグループでの半構造化インタビューとした。グループインタビューを採用した理由は、質問のテーマを中心に、対象者同士の相互作用によってより多くの語りを得ることが期待できるためである。

インタビュー調査は、2023年9月12日、事業所eをお借りし、対面によって実施した。時間は約120分であった。インタビュー内容は対象者の同意を得てボイスメモに録音し、インタビュー終了後に逐語録を作成した(本論文「付録4」参照)。

インタビュー調査に先立ち、事前に質問紙調査を実施した。情報共有の現状を把握することを目的に、「対象者の特性」、「情報共有の経験・方法」、「利用児童の所属学校のスケジュール」、「支援方法・状況」、「障害特性・健康状態」、「利用児童の所属学校のホームページ」、「その他共有の必要性を感じる情報」という7つの領域からなる質問の回答を得た。主な内容について表1に示す。

表1. 質問紙調査の領域と主な内容

領域	主な内容
対象者の特性	所属、役職、役職年数、勤続年数、所有資格
情報共有の経験・方法	共有経験の有無、方法(送迎・電話・書面・保護者経由・カンファレンス等)
利用児童の所属学校のスケジュール	共有経験の有無、共有の程度、スケジュールの把握方法
支援方法・状況	共有経験の有無、共有の程度(食事・排泄・更衣・移動・強度行動障害・意思表示の支援等)
障害特性・健康状態	共有経験の有無、共有の程度(服薬・発作・体調)
利用児童の所属学校のホームページ	閲覧経験の有無、閲覧内容
その他共有の必要性を感じる情報	利用児童の(家庭での様子・家庭のこと・放課後の様子・支援計画)

(出典) 筆者作成

調査票やインタビューガイドは事前に5事業所全体の責任者であるH氏(当日のグループインタビューにもファシリテーターとしてご参加いただいている。)に確認・添削を依頼し、内容や質問項目の妥当性を高めた。

第2項 倫理的配慮

対象者には、研究内容の説明、参加は自由参加であること、個人情報の保護について文書と口頭で説明を行い、調査票の提出をもって同意を得たものとした。また、文書(本論文「付録3」参照)にて、個人名や事業所名を含む回答はすべて匿名処理を行うこと、インタビューの録音データは論文の執筆を終えた時点で抹消すること、調査票にある回答者の個人情報は論文の執筆を終えた時点でシュレッダーにかけて抹消することを約束した。

第3章 結果と考察

本章では、質問紙調査の結果とインタビュー調査の結果を示す。質問紙調査の7つの領域(①対象者の特性、②情報共有の経験・方法、③利用児童の所属学校のスケジュール、④支援方法・状況、⑤障害特性・健康状態、⑥利用児童の所属学校のホームページ、⑦その他共有の必要性を感じる情報等)ごとに、質問紙調査の結果とインタビュー調査の結果を述べていく。インタビュー調査の結果については、得た語りを内容ごとに分類し、現れたニーズを抽出して示す。なお、対象者の語りは斜線・ゴシック体で示し、省略をしながら発言通りに引用して記述する。語りの中で、ニーズが端的に表現されている部分には下線を加えた。

第1節 対象者の特性

グループインタビューの前段階として対象者の特性(勤務年数・所属事業所等)と情報共有の現状に関する質問について質問紙調査を実施した。対象者の特性を表2に示す。

対象者の中で勤務年数の長い者は児童発達支援管理責任者と管理者とを兼務している場合がある。また、所属する事業所によって利用児童の特性も異なるため、特別支援学級と

の引き継ぎ経験が多い場合と特別支援学校との引き継ぎ経験の多い場合とがある。対象者の所有資格は様々であり、最も多いのが介護福祉士、次いで保育士と社会福祉士となっている。

表 2. 対象者の特性

対象者	事業所	役職	役職年数	勤続年数	所有資格
A	a	児発管兼管理者	4年	8年	社会福祉士・介護福祉士
B	a	児発管	1.5年	1.8年	なし
C	a	児発管	1年	2.6年	教員免許
D	b	児発管	1年	6年	社会福祉士・介護福祉士 ・認定心理士
E	c	児発管兼管理者	6年	7年	保育士・介護福祉士
F	d	児発管兼管理者	5年	12年	保育士・幼稚園教諭
G	e	児発管	1年	4年	介護福祉士

注：本表では、「児童発達支援管理責任者」を「児発管」と略して記載。

(出典) 筆者作成

第 2 節 情報共有の経験・方法について

第 1 項 質問紙調査の結果

「学校と利用児童に関する情報を共有したことがありますか」という質問に対して、全ての対象者が「ある」と回答した。

「学校との情報共有において、経験したことのある方法を教えてください」という質問に対しては、表 3 に示す回答を得た。

表 3. 情報共有の方法 (複数回答可)

送迎の引き継ぎ時	電話	書面	保護者経由	カンファレンス等	その他
7 (100%)	5 (71.4%)	1 (14.3%)	5 (71.4%)	4 (57.1%)	1 (14.3%)

(出典) 筆者作成

すべての対象者が「送迎の引き継ぎ時」における情報共有を経験しており、半数以上の対象者が「電話」、「保護者経由」、「カンファレンス等」での情報共有を経験している。一

方、「書面」における情報共有はほとんどの対象者が経験していなかった。「その他」では「学校担任の事業所訪問」という回答を得た。

「学校との情報共有について、最も頻度の高い方法を教えてください」という質問に対しては、すべての対象者が「送迎の引き継ぎ時」と回答した。

第2項 インタビュー調査の結果

インタビュー調査では、「送迎の引き継ぎ時」、「電話」、「書面」、「保護者経由」、「その他」の5つの項目に関わる語りを得ることができた。「カンファレンス等」に関する語りは得ることができなかった。以下、得ることのできた語りとニーズを記載する。

1. 送迎の引き継ぎ時

〈まとまった情報の提示〉

『(略)自閉症のこだわりで決まったものしか食べないっていうA1(利用児童)さんがいて、保護者も給食がどのくらい食べられているかというのはすごく気にしているので、引継ぎ時には必ず給食をどの程度摂取したのかというのを聞いてほしいという風に保護者から言われていて、一応保護者から担任の先生にもその旨は伝えてもらってはいるのですが、先生が覚えていてくれない限り先生から食事の話は来ないです。(略)主食なのか主菜なのか副菜なのか、それもこっちから聞かないと言ってもらえないので、毎回そこで時間が取られちゃう…。先生も分かっているなら、その情報がある程度まとめたものをポンと言ってくればいいんですけど…(略)』(E氏)

保護者から学校に、放課後等デイサービスとの情報共有を実施するように依頼されている場合でも、自発的な共有が無かったり、伝達内容が安定せず時間を要したりすることがある。そのため、「まとまった情報を伝達してほしい」というニーズが見られた。このニーズの背景要因として、「時間の不足」という課題や「教員による意識の差」という課題が想定される。引き継ぎ時は時間が限られているため、まとまった情報の提供を受け、円滑な引き継ぎを実施したいという願いが感じられた。教職員側には、ある程度伝達内容を

精選し、端的で具体的な情報を伝える努力が求められていた。

〈保護者優先〉

『どうしてもやっぱり事業所の職員に対してはさらっと流して、保護者が迎えに来ている児童をメインに。保護者と話をしたいので、事業所が迎えに来る児童に関しては「今日食べてまーす」みたいな。「元気でーす、食べれてまーす」みたいな感じで。(略)結局他の保護者の所に行ってしまうと、それ以上突っ込んで聞くにも聞きにくくて。(略)』(E氏)

上記の語りは特別支援学級との引継ぎの事例である。保護者迎えと送迎のタイミングが一致した際に、保護者とのやり取りが優先され、満足に情報を得ることができない現状がある。特別支援学級においては特別支援学校に比べて対応可能な教職員数が少ないことが影響していると考えられる。

〈対応教職員による情報共有の質の変化〉

『「私担当じゃないから知りません」とストレートに言われてしまって。「でも担当の先生今日お休みかなんかでいないですよね」という状況なのに、「いや分からないですね見てないから」という…。』(F氏)

『引き継ぐ先生が本人の担任ではない時もあるので、養護学校Aとか特にあるんですけど。排泄のこととかでも、「あ、僕担任じゃないので、ちょっと分からないです」と言われて、毎回確認している内容が確認できないなということは結構あります。』(E氏)

『「いつもと違う先生が連れてくると、「僕今日このクラスに入っていないので分からなくて」という時もあります。「ちょっと聞いてくるので待ってますか」みたいな感じで聞いてくれる先生もいます。「すみません、ちょっと分からなくて…じゃあ」という感じでいなくなってしまう先生も(略)。』(E氏)

引継ぎを担当する教職員が固定化されていなかったり、欠席による変更があったりする

ことで、引継ぎの内容に差が生じていた。また、毎回確認している内容が教員の変動により確認できない事例もあった。特別支援教育は複数人の教職員で教育活動にあたるため、引継ぎを担当した教員が放課後等デイサービス職員に尋ねられた情報を有していない場合がある。また、教職員の中で毎回必ず引き継いでいる情報項目が共有されていない現状が示唆された。

〈担任の把握〉

『たまにしか行かないけど、支援学校A、誰が担任かもほぼ分からないし、こっちも。そのくらい…把握できていない。』(A氏)

『担任の判別は難しい。』(G氏)

『昔だと、Nちゃんのところが、結構(保護者から)学校の連絡帳とか手紙とか見てもいいという風に言われていて。4月とかだと、各クラスの担任の先生の一覧があって、「これ、このクラスの先生たちみたいだよ」みたいな感じで話をしたことはあります。そういうのも事業所に1部、入れてくれたらうれしいなとは思いますが。(略)』(E氏)

『ちょっと、「担任のなんとかです。」とかあれば…』(A氏)

『最初の時だと、引き継ぐ時に、「この4月から担任になりました」という風に挨拶してくれる先生はいます。全員ではないので…とりあえず、でも1クラス3人いる中で1人でもおさえておけば、なんとかなるかなっていうので。挨拶してくれる先生はすごく助かります。』(E氏)

引き継ぎを担当する教職員によって情報共有の内容や質が変わることに加え、担任を把握できていないためにどの教員に情報共有を求めればよいか分からないことがある。そのため、「担任紹介の学校だよりを事業所にも提供してもらいたい」、「新年度には担任の先生から挨拶をもらいたい」等、「担任の把握」というニーズが見られた。

〈時間の不足〉

『時間もないし、次から次へとどんどん車に連れて行かなきゃいけなくて、こ

っちもゆっくり話をする時間が無いので…。(略)なんか…違う共有の仕方がある
ればいいなという風に。』(B氏)

『先生と話せる時間が引継ぎの時という、短い時間なので、先生たちもそこで一人の児童に時間をかけることはできないのかなという感じはありますね。』(E氏)

『はやく連れて帰ってくれみたいな感じもある…』(F氏)

対象の放課後等デイサービスでは、1～2人の職員が1～8人の利用児童を引き継いでいる。そのため、一人ひとりの引継ぎに時間をかけることができない現状がある。また、送迎は1校のみならず、複数校に訪問する場合がある。次に送迎に向かう学校の下校時刻を見越して、素早い引継ぎが求められる場合がある。学校側は、1人の教職員が1～3人の児童生徒を引き継ぐ場合が多い。引き継ぎ先の放課後等デイサービスも児童生徒によって異なることから、一人当たりにかけることのできる時間が短いことが想定される。

以上のような「時間の不足」という現状に対して、送迎時の「口頭による引継ぎ以外の共有方法」というニーズが見られた。

〈送迎状況の把握〉

『事業所がどんな風に送迎をしているか、多分先生たちは分からない。だから、すごく下校時刻より早く待っている学校があったりとか、逆にこの下校時刻なのに15分くらい待たせたりとか。その後事業所がどんな風に動いているかとか、そういうのを多分知らないと思うから、そういうのを分かってもらったりとか、下校時刻がどれだけ市でかたまっているのかとか、そういう現状を知れば、もう少し送迎に関しては改善できることがあったりとかするのかな。

(略)あと、乗せ込みとか。車まで連れてきてくれるのが当たり前って言ったらおかしいけれど、そこまでが学校の仕事だよくらいな、そういうのができていくと色々なことがスムーズに回ったりするのかな、というのはすごい感じる。』(A氏)

送迎で学校を訪問した際に、利用児童が下校時刻通りに出てこない現状がある。前後に

他校の送迎に向かうことや、毎日送迎表を組んで計画的に送迎を行っていること等、「送迎の現状を知ってほしい」というニーズが見られた。

また、「乗せ込みを手伝ってほしい」というニーズも見られた。インタビュー調査では、2校の特別支援学校と12校の特別支援学級が連携先として登場した。2校の特別支援学校のうち、支援学校Aは昇降口前に送迎車を停車して乗せ込みを行うことができる。一方支援学校Bは、昇降口から離れた位置に駐車場がある。昇降口で引継ぎを行った後、1人の職員あたり2～4人の利用児童の誘導と乗せ込みを行う曜日もある。このような多忙な状況等から、「乗せ込みまで協力してほしい」というニーズがうまれたと考えられる。

2. 電話

『(略)10分遅れてしまうという連絡を早く分かった方がいいと思って、学校の方に午前中に連絡をしたら、「それは、保護者から学校の方に連絡をしてもらってください」と。事業所が学校に直接ではなくて、保護者に連絡をしてその保護者から学校の方に連絡をするようにしてくださいと。』(A氏)

『逆に支援級Kの12くんの先生は、12くんに直接電話かけてきて…』(B氏)
(略)

『卒業式のなんか、練習、役のなんとかかんとか。』(H氏)

『そういうやりとりを、事業所を介してやりました。』(B氏)

『(利用児童の担任から情報提供を求められた件について)私が担任の先生に連絡をしたら、地域支援課?の人が間に入ってしまって。「どういうご用件でしょうか。」みたいな。「直接おつなぎはできません。」みたいな、そういう感じで。「私は聞かれたから、今連絡をしているので、直接お話をしたいのですけれども」って。「いやでも、こういう時は私たちが先に」って言うから、「あ、だったら別にいいです。むこうが聞きたいって言うから電話しただけなので。」って言って、電話を切ったら、担任の先生から直接電話が来た。』(A氏)

放課後等デイサービス発信による電話での情報共有について、学校は控えめな姿勢を示

す傾向にあった。保護者を經由する必要性の低い送迎時刻の連絡に関しても、引き継ぎ時に受けた質問の回答をしようとした際にも直接のやり取りを控える様子があった。

しかし、学校発信による電話での情報共有は特に抵抗感なく行われている様子がみられた。このことから、受信した電話による情報提供を控えていることが示唆された。

3. 書面

〈連絡帳の共有〉

『引継ぎの時に、時間がないとか、いろいろやっぱりお互いあるので、連絡帳の共有みたいなことができるの良いかなと。学校での連絡帳と、こちらのも見ってもらってという…やり取りが少しでもできると、「あ、ここに気を付けているんだな」とか、お母さんのコメントであったり、今日こういう状態だったんだなというのが。個人情報とかがあるから勝手に学校の連絡帳を見ていいのか分からないし、それが公認になってやり取りができれば、少し歩み寄れるのになっていうのがあって。』(A氏)

『保護者も入って1枚でいいじゃん。併用事業所もみれる。』(H氏)

『給食とかは、保護者から「学校の見ちゃっていいですよ」みたいなお話しいただいて、見たことはあります。』(D氏)

『A1くんのところは、もうちょっと本人が授業中どうだったかということも書いてあることがあるから、週5日毎日来てるんですけど、(保護者から)「お手数ですが本人の様子を知るために学校との連絡帳はみてください」と逆に言ってもらっているので、学校の連絡帳は必ず来た時に見させてもらったりはして。支援学校Aの児童の保護者、K1くんとかB1くんあたりなんかは、(略)「もし分からなかったり、気になるときは学校の連絡帳みてどうぞ」っていう風に、保護者の了承を経て見させてもらっている児童もいます。』(E氏)

引継ぎ時に共有しきれない食事・排泄等の情報や情緒面の様子について、保護者の了承

を得て学校の連絡帳を閲覧する事例があった。また、送迎の引継ぎ時の情報共有に不足を感じていることから、「連絡帳の共有」というニーズが見られた。さらに、学校と保護者と事業所で1つの連絡帳を共有するという案もあがった。

〈書面による情報共有の増加〉

『昔、支援学校Bは新年度必ず事業所が集まる日ありしたよね。(略)学校のシステムというか、登下校の約束事だったり、災害の場合にはこのような手順で保護者に連絡がいて、休校とかそういった情報を流しますというのを。(略)コロナの前はありました。(略)』(E氏)

『今は封筒でもらいますよね、4月の頭に。』(G氏)

『そう、コロナになってからは多分集まるのではなくて封書で、一斉配布でおしまいって感じ。』(E氏)

コロナ禍の影響を受けて、学校と放課後等デイサービスの直接のやり取りが減り、書面でのやり取りが増えていることが明らかになった。書面化による変化やニーズについては言及がなかった。

4. 保護者経由

〈学校での支援方法の共有〉

『以前F1さん(利用児童)のお母さんと面談をした時に、「学校では台?の上に乗せると、食べこぼしなく食べれてるみたいです。」ということをお母さんから聞いて、こっちもやってみたら確かに食べこぼしがなく済んだことがあって。』(B氏)

『事業所が学校に「どんな形でやっていますか?」と聞くことをあまりよく思っていない…。「計画相談を通してください。」とか、「そういうものは保護者から聞いてください。」みたいな感じになるので、「学校でどういう支援をしていますか」というところを、なんとなく計画相談とか保護者から、みたいな。』(E氏)

『2年前くらいに支援学校BのM1さんの食事の風景をご家族から…(略)「学校ではちゃんとエジソン箸を使って、食具をちゃんと持って食べているんです。」という動画を見せたら、本当にちゃんと上手に食べていて！本人が離席しないように、食事のテーブルは必ず壁側に座らせて、その隣に先生が付いて声をかけて…とやると良いそうで。「家でもなるべく同じ状況にしようと思います」と。学校でどのような支援をしているのかは家庭も事業所も共有できるといいかなと。』(E氏)

学校での支援方法を保護者経由で入手し、活用するケースが多く語られた。保護者の方が話をする機会が多いことや、E氏の語りにあるように、「学校が放課後等デイサービスに対する情報提供を控える」ことが理由として考えられる。同じ子どもを支援する機関として、「学校での支援を家庭とも事業所とも共有したい」というニーズが見られた。

〈学校のスケジュールの共有〉

『保護者で面談した時に、「学校でのプランはこんな感じです」って見せてもらったことがあって。すごく細かく、1年間の計画とか、こういう手作業やりますとか。すごくわかりやすく、保護者が間に入ってる共有でしたけど、そういうのが見れると、うれしいなと。支援計画にも活かさなきゃ！と。』(D氏)

『(下校時刻について)支援学校Aは(学校だよりを)くれるんですけど、配れませんかっていうところ…どこだったかな、渡せませんっていう、保護者から聞いてくださいっていうところもある。』(A氏)

年間計画や下校時刻等、学校のスケジュールについても保護者経由で入手していた。対象の放課後等デイサービスでは、毎月保護者に利用申請書を配布し、利用の有無と下校時刻を把握している。下校時刻の記載された学校便りの写しを保護者から提供してもらう場合もある。学校の都合による下校時刻の変更があった際にも、保護者から連絡帳や電話で連絡を受け、対応している。

保護者経由で支援方法やスケジュールを把握している現状について、ニーズの言及はな

かった。

5. カンファレンス等

インタビュー調査では、カンファレンス等による情報共有に関する語りやニーズを得ることができなかった。

6. その他の方法

〈事業所訪問〉

『事業所見学に(先生方が)来たことは…?』(質問者)

『あるよ。平成 27、28 年は夏休みの期間を利用して、支援学校 A の先生が 1 週間くらい。』(H 氏)

『支援学校 A だけですか。』(質問者)

『うん。先生たちが自分たちで事業所選ぶらしい。事業所 d にもいたよな。』(H 氏)

『はい。』(F 氏)

『D1 くんが、他事業所を利用している時に、支援学校 B の先生がボランティアか何かでちょうど来ていたようで。支援学校 B もそういうのはあるのかも。』(A 氏)

学校教職員の事業所訪問について、近年は訪問がないことが明らかになった。コロナ禍の影響を受けて訪問を休止して以来、再開していない様子があった。また、これまでに特別支援学校からの訪問経験はあったが、特別支援学級からの訪問経験はなかった。

〈学校訪問〉

『(略)私 B 市で働いていた時は、B 市の支援学校は学校へ行こう週間という週間があって。授業参観みたいな感じで事業所が学校に行ける週間があって。』(B 氏)

『(略)授業の風景であったり給食の時であったり、自由にみれる週間があった。』(B 氏)

『(略)すごくオープンな学校で、卒業式にも出させてくれたり、学習発表会とかも行けたりして。卒業式とかも来賓の席として事業所の席を用意してくれていたりして。(略)その子がどういう、例えばパーティションで囲って授業を受けていたりとか、どういう課題をやっているかとかも自由に見ることができたので。そういう、学校がもうちょっとオープンになって、事業所が見に行けるようになると…。逆に学校の先生も事業所に見に来るみたいな環境ができるといいなっている。』(B氏)

『昔支援学校Aに、N1ちゃんが個別活動をしている様子を見に行ったことがある。』(A氏)

『(略)(体幹の特性で)だらんとなってしまうから、一人では座れないのだけど、ベルトをカチッとされて座ってやっていたの。そういう、学校では設備とか環境が整っているっていう情報とかがあれば、同じようにはできないかもしれないけど、工夫が、どういう工夫が事業所ではできるかなということが知れるから、行けるのはありがたいなという。』(A氏)

『私支援学校Aの体育祭と文化祭は行きました。あと学校の方で、当時事業所aにいた時の、P1くんのケースカンファレンスを学校でやったときに、「授業の様子見ていかれますか。」という風に声をかけて頂いて、その教室の中まで入らせてもらって。』(E氏)

コロナ禍以前には、対象の放課後等デイサービスの所在地であるA市でも、放課後等デイサービス職員が学校を訪問する機会を有していた。しかし、それは学校行事等の特別な機会であった。A市の状況に対して、B市では放課後等デイサービス職員が普段の学校の様子を見学することのできる機会が開かれていた。市区町村や学校ごとに学校の情報開示の程度や地域との交流の程度が大きく異なることが明らかになった。

放課後等デイサービス職員が学校を訪問することは、支援方法のヒントを得ることに役立っており、「学校がもっとオープンになってほしい」というニーズになっていた。

〈計画相談支援員経由の情報共有〉

『計画相談が入っていれば、学校でどういうことをしているかということを知っていただける。でも事業所が学校に「どんな形でやっていますか？」と聞くことをあまりよく思っていない…。「計画相談を通してください。」とか、「そういうものは保護者から聞いてください。」みたいな感じになるので、「学校でどういう支援をしていますか」というところを、なんとなく計画相談とか保護者から、みたいな。』(E氏)

『(略)やっぱり学校に聞くのは難しいイメージはある、全体的に。計画相談の人に聞いても、「あ、学校ねえ〜…」みたいな。』(G氏)

『「学校が計画相談にさえ教えてくれないってこともあるので。」』(E氏)

そうそう。(G氏)

なんか計画相談に入ってもらっている意味がないっていう風に思うことがあります。前に、支援学校Bに対して、児童のことについて知りたいとか、支援計画を立てたから学校の方にも共有をというのと、「あ、うちは結構です。」みたいな感じで「学校が計画相談さえもピシャッて。そうなるとうちが本当に共有が難しいと思っちゃう。」(E氏)

計画相談員経由で学校での様子や支援方法等の情報提供を受けている反面、計画相談員との情報共有をも控える学校があり、苦労している現状があった。

第3節 所属学校のスケジュールに関する情報共有について

第1項 質問紙調査の結果

「利用児童の所属学校のスケジュール（年間計画・行事予定・下校時刻等）について学校と情報共有したことはありますか」という質問に対し、「ある」と回答したのは5名（71.4%）、「ない」と回答したのは2名（28.6%）であった。

「ある」と回答した対象者に「利用児童の所属学校のスケジュールについて、学校との程度共有できていますか」と質問したところ、表4に示す回答を得た。「その他」の自由記述では、「学校だよりを事業所にも配布して下さる場合と配布禁止の場合とで共有のされ方が大きく異なる」、「十分な学校もあればやや不足している学校もある」という回

答を得た。

表 4. 学校のスケジュールに関する情報共有の程度

十分	やや十分	どちらともいえない	やや不足	不足	その他
0 (0%)	0 (0%)	1 (20%)	2 (40%)	0 (0%)	2 (40%)

(出典) 筆者作成

「ない」と回答した対象者に「利用児童の学校のスケジュールをどのように把握していますか」と質問したところ、すべての対象者が「保護者経由」と回答し、半数の対象者が「学校のホームページから」と回答した。

第 2 項 インタビュー調査の結果

『保護者で面談した時に、「学校でのプランはこんな感じです」って見せてもらったことがあって。すごく細かく、1年間の計画とか、こういう手作業やりますとか。すごくわかりやすく。保護者が間に入っただけで、そういうのが見れると、うれしいなど。支援計画にも活かさなきゃ！と。』(D氏)

『ちなみに、その下校時刻は、申請書で、お母様お父様に教えていただいているという状況ですか。』(質問者)

『うん。』(G氏)

『あっ、支援学校A…』(H氏)

『支援学校Aはくれるんですけど、配れませんっていうところ…どこだったかな、渡せませんっていう、保護者から聞いてくださいっていうところもある。』(A氏)

質問紙調査でも明らかになった通り、学校のスケジュールを保護者経由で入手するケースがあった。学校だよりが配布禁止になっている学校や、予定表をHPに公開していない学校など、学校により情報開示の程度に差がある為、保護者からの情報提供を受けてい

た。保護者から提供を受けた下校時刻が誤っていたり、下校時刻の変更の伝達が無かったりすることもある。そのため、筆者は何度か学校から迎えの催促をする電話を受けたことがある。スケジュールの入手方法については特に言及がなかった。

第4節 支援方法・状況に関する情報共有について

第1項 質問紙調査の結果

「利用児童に対する支援方法・状況について学校と情報共有をしたことはありますか」という質問に対し、すべての対象者が「ある」と回答した。「食事の支援」、「排泄の支援」、「更衣の支援」、「移動の支援」、「強度行動障害等に関する支援」、「意思表示(コミュニケーション方法)の支援」のそれぞれに関する情報について、学校とどの程度共有できているか質問したところ、表5に示す回答を得た。

表5. 支援方法・状況に関する情報共有の程度

	十分	やや十分	どちらともいえない	やや不足	不足	その他
食事	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	5 (71.4%)	2 (28.6%)	0 (0%)
排泄	0 (0%)	1 (14.3%)	0 (0%)	4 (57.1%)	2 (28.6%)	0 (0%)
更衣	0 (0%)	1 (14.3%)	2 (28.6%)	0 (0%)	3 (42.9%)	1 (14.3%)
移動	0 (0%)	0 (0%)	2 (28.6%)	1 (14.3%)	3 (42.9%)	1 (14.3%)
強度行動障害等	1 (14.3%)	0 (0%)	2 (28.6%)	0 (0%)	3 (42.9%)	1 (14.3%)
意思表示	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (42.9%)	4 (57.1%)	0 (0%)

(出典) 筆者作成

食事の支援に関する情報共有は全体として不足を感じていた。排泄の支援に関する情報共有はやや十分であると感じる対象者がいる一方で、多くの対象者が不足を感じていた。更衣の支援に関する情報共有について、「その他」の自由記述では「共有したことがほとんどない」という回答を得た。移動の支援に関する情報共有について、「その他」の自由

記述では「該当する児童がいない」という回答を得た。同様に、強度行動障害等に関する支援についても、「その他」の自由記述で「該当する児童がいない」という回答を得た。意思表示の支援に関する情報共有は全体として不足を感じていた。

第2項 インタビュー調査の結果

インタビュー調査では、「食事の支援」、「排泄の支援」、「更衣の支援」、「意思表示(コミュニケーション方法)の支援」の4つの項目に関わる語りを得ることができた。「移動の支援」、「強度行動障害等に関する支援」に関する語りは得ることができなかった。以下、得ることのできた語りとニーズを記載する。

1. 食事の支援

〈具体的な摂取量〉

『事業所cでは、給食がほとんど食べられないっていう、自閉症のこだわりで決まったものしか食べないっていうA1(利用児童)さんがいて、保護者も給食がどのくらい食べられているかというのはすごく気にしているので、引継ぎ時には必ず給食をどの程度摂取したのかというのを聞いてほしいという風に保護者から言われていて(略)。こちらが忘れずに聞かないと、教えてもらえないことが多くて。その内容も日によってすごくバラバラで、「ちょびっと食べられています」とか…「ちょびっと」ではなくて「何がどの程度食べられたのか」というのを知りたくて。主食なのか主菜なのか副菜なのか、それもこっちから聞かないと言ってもらえないので、毎回そこで時間が取られちゃう…。(略)』
(E氏)

『メニューとかも、「これ食べた」「ちょこっと食べました」とか報告を受けて。(略)その子は支援級Bの子で、主食としてご飯を食べてきていればおにぎりは提供しないというところで、おにぎりを提供するかしらないかに関わってくるので、きちんと教えてほしいんだけど、そこが返ってこないことがよく…』
(F氏)

食事の支援について、保護者から共有を依頼されているケースがあり、正確な把握をしたいという思いから「具体的な摂取量の共有」というニーズが見られた。また、給食の摂取量によって事業所での間食の提供の有無を決定している場合があった。そのため、「ちょびっと」等の抽象的な伝達ではなく、数的で具体的な摂取量の伝達が望まれていた。

〈支援方法の共有〉

『(略)「支援」の面、食具とか、「どんなものを使っているか」というやり取りまでは…。時間もないし、次から次へとどんどん車に連れて行かなきゃいけなくて、こっちもゆっくり話をする時間が無いので…。』

以前F1さん(利用児童)のお母さんと面談をした時に、「学校では台?の上に乗せると、食べこぼしなく食べれてるみたいです。」ということをお母さんから聞いて、こっちもやってみたら確かに食べこぼしがなく済んだことがあって。食事量は学校に行くときにやりとりができるけれど、どんな支援をしているかまでは時間の問題とかもあって難しいなという風を感じています。なんか…違う共有の仕方があればいいなという風に。』(B氏)

『食事に関しても摂食指導を受けている子であったり、どういう食具で、どういう食事形態で、学校では食事を見ていて、食べさせているのか…。(略)学校でどのような支援をしているのかは家庭も事業所も共有できるといいかなと。』(E氏)

食事の支援について、食具の使用や食事形態、支援方法、環境設定等についての共有が不十分であることが明らかになった。放課後等デイサービスにおいても長期休みや午前授業の日課の日等、食事介助を行う機会がある為、「学校・家庭・事業所間での支援方法の共有」というニーズが見られた。

2. 排泄の支援

〈排泄の支援の不足〉

『支援級Cだと、普通に「最後トイレに行けていなくて、もう(紙パンツが)パンパンだと思うのでよろしくをお願いします。」って言われるんですよ。「えっ、分かっているなら変えてから来てもらってもいいですか…」みたいな感じで…。(略)』(E氏)

『「忙しくて連れていけません。」とか言われるんですよ。「何時に行ったきり行っていない」とか。親がもう心配で、「迎えの時にトイレいつ行ったか聞いておいてください」と言われることも最近多いかな。』(F氏)

『支援級にどこまで求めるかという話にもなっちゃいますよね。学校なので、多分トイレ介助的なところは、自立しているのが条件なのかなと思うんですけど。支援級はトイレに関してはかなりひどい。』(E氏)

『うん、支援級はひどいと思います。小学生は特に。(略)事業所cにいた時に「また汚れたおむつが入っている…」みたいな。捨ててもらえない、学校で。(略)』(G氏)

『(略)事業所aにいた時、I1ちゃん(利用児童)が1年生で入ってきた時、荷物開けたら(紙パンツが)入っていて、「えっ?!」みたいな。』(E氏)

『衝撃的だったよな。』(H氏)

『衝撃的でした。使用済みの紙パンツが普通のビニール袋に包んだ状態で入っていて。あんな真新しい綺麗なランドセルに突っ込まれているのが衝撃的すぎて。保護者と約束で、双方でOKになっていることなのかな、とは思っていますが、なんかもうちょっとなかったのかなと。』(E氏)

『「最後トイレいつ行きましたか」と聞くと、「大体お昼過ぎくらいには皆行っていると思うんですよ」みたいな。』(A氏)

『「自分で行っていたと思います」みたいな感じも。』(E氏)

『そのレベルなのか…と思うと他のこともこっちも聞きづらくなっちゃう。トイレがその状況だと他のこともやってもらえていないだろうなと思っちゃうこ

ともある。』(G氏)

〈支援方法の共有〉

『トイレ介助にしても、学校と自宅と事業所で同じように支援をしてあげないといけないというところで、学校ではどういう風な声かけであったりで成功しているのか。なにをもって成功と言っているのかというところが見えてこない。普段事業所ではトイレに行きたがらないし君の、行きたがらなさと、うんちをした後の動かなさを知っている身としては「成功しています」と言われても、具体的に…どういう声かけでどういうところでどう成功しているのか知りたいので。』(E氏)

排泄の支援に関しては、多くの現状・課題・ニーズが語られた。支援級に対して排泄の支援の不足を感じている職員が多く、「排泄の支援を済ませてから引き継いでほしい」というニーズが見られた。また、保護者も排泄について気にしており、排泄状況の共有を依頼されている事例があった。排泄の支援方法について、学校・家庭・事業所の三者間での統一を望んでおり、声かけ等を含めた「支援方法の共有」というニーズも見られた。

3. 更衣の支援

『あ、靴下とか！いつも靴下をはいている子が、事業所にきて靴を脱いだ時に素足だった時があって。結局は見当たらなくて、お母さんにお伝えしたら「靴下が濡れてしまったので履かせずに帰しました」と学校の連絡帳に書いてあったみたいで。衣類…』(E氏)

『あと上着ね。これからの時期涼しくなるから…。朝は寒いから着ていったけれど、事業所の引き継ぎの時は暑いから着ていなくて、鞆に入っていますとか。』(G氏)

『入っているのか、入っていないかとか。帰したときに、「あれ、上着は？」みたいな。「上着もってたの…？」みたいな。朝持って行ったものの有無とか。』(E氏)

更衣の支援について、学校での着脱に関する引き継ぎや持ち物の引き継ぎがない事例があった。利用児童を自宅へ送迎する際の対応に関わるため、「着脱の有無や収納先の共有」というニーズが見られた。

4. 移動の支援

インタビュー調査では、移動の支援に関する情報共有についての語りやニーズを得ることができなかった。

5. 強度行動障害等の支援

インタビュー調査では、強度行動障害等の支援に関する情報共有についての語りやニーズを得ることができなかった。

6. 意思表示(コミュニケーション方法)の支援

『コミュニケーションは知りたい…』(E氏)

『うん。』(G氏)

『児童とのコミュニケーション。』(E氏)

『同じ学年のクラスの子達とどうやって関わっているのか。対大人になる子が多かたりもするから事業所だと。そうならないように努力はするんだけど。やっぱり事業所eの子なんかは特に、(質問者も)分かると思うけれど、レベルが凸凹だから、対職員になる子が多くなってしまいう時があるじゃない?』(G氏)

『はい。』(質問者)

『だからトランプとかでうまいことかき集めてやったりとかするけど。となるとやっぱり同じ学校の同じクラス同じ学年?の例えばその交流級とかで普通級の子と支援級の子が一緒になっている時とかも、その様子、どうやって関わっているのかなとか。本当は見に行ければ一番いいんだけど。その時間どうしてもこっちはない…。どの学校もどの児童も見たいけれど…見れないよね、現実的に、みたいな。』(G氏)

意思表示(コミュニケーション方法)の支援について、利用児童同士の関係性の構築の参考にするために「同学年の子どもとの関り方の共有」というニーズが見られた。表出方法や使用しているサイン、絵カード等に関する言及はなかったが、筆者は学校から絵カードの提供を受けた事例や、保護者から表出サイン一覧の提供を受けた事例を経験している。

第5節 障害特性や健康状態に関する情報共有について

第1項 質問紙調査の結果

「利用児童の障害特性や健康状態について学校と情報共有をしたことはありますか」という質問に対し、全ての対象者が「ある」と回答した。「服薬」、「発作(てんかん発作・喘息発作・パニック発作等)」、「発病・発熱・排泄状況等、体調」のそれぞれに関する情報について、学校とどの程度共有できているか質問したところ、表6に示す回答を得た。

服薬に関する情報共有について、「その他」の自由記述では「全く話に出てこない。薬を服用し始めたばかりの児童については、例えば答えてくれることもある。」という回答を得た。発作に関する情報共有については、回答に幅がみられるものの、半数以上が不足を感じていなかった。体調に関する情報共有についても回答に幅がみられる結果となった。

表6. 障害特性や健康状態に関する情報共有の程度

	十分	やや十分	どちらともいえない	やや不足	不足	その他
服薬	0 (0%)	0 (0%)	2 (28.6%)	1 (14.3%)	3 (42.9%)	1 (14.3%)
発作	1 (14.3%)	2 (28.6%)	3 (42.9%)	1 (14.3%)	0 (0%)	0 (0%)
体調	1 (14.3%)	2 (28.6%)	0 (0%)	3 (42.9%)	1 (14.3%)	0 (0%)

(出典) 筆者作成

第2項 インタビュー調査の結果

インタビュー調査では、「発作」、「発病・発熱・排泄状況等、体調」の2つの項目に関わる語りを得ることができた。「服薬」に関する語りは得ることができなかった。以下、得ることのできた語りとニーズを記載する。

1. 服薬

インタビュー調査では、服薬に関する情報共有についての語りやニーズを得ることができなかつた。

2. 発作

『(略)発作がある子はみんな注意してみるじゃん。命に…発作が命にかかわることではないけれど、二次的なもので怪我とかにつながるものだから。「発作があつてここ打っちゃいました」とか。N1さんなんかもそうだよな？学校で怪我したとかね。』(G氏)

『そうですね。先生によっててきとうに言っているなというのがありますけど、でも必ず言つてはくれます。』(D氏)

発作に関する情報共有については、比較的十分に行われていた。特に、てんかん発作のある利用児童については引継ぎの際に発作の有無や回数、怪我の有無が引き継がれていた。

3. 発病・発熱・排泄状況等、体調

『引継ぎの時に、例えばあざを見つけたりとかして、「先生これって朝からありましたか」って聞くと、「あ〜どうだろう、分かんないなあ」って言われることもある。学校でもいつできたのか、朝からなのかってところが分からない怪我とかあざはあります。』(G氏)

『かみつきもそうですね。あきらか、見るからにすごいついていても、「わかんないですね」って。「ええ？」みたいな。』(F氏)

『じゃあ結構怪我は「言つてよ…」という感じの情報に入りますか？』(質問者)

『はいります。』(一同)

『(略)支援学校Bで引き継いできた児童が顔に絆創膏をはつていて。基本的に絆創膏をはるようなことが無くて。家にお送りした際にお母さんも「あ、どうした

の？その絆創膏」みたいな感じで。「すみません、学校の引き継ぎ時にはもうつけていて、ちょっとこちらで確認が取れなくて…」とお伝えしたら、「あ、じゃあ学校かな！連絡帳見ればわかると思うので～」ということがあって。あきらかな、手当てをしたなら言ってほしいなと思いますね。事業所についてから気づくこともあったりして、送迎車でできてしまったものなのか学校なのか分からなくなってしまう。』(E氏)

(略)

『なので学校で聞けなかったときは、保護者に連絡をして、「引き継いで事業所までは到着してしまったのですが、確認したらどどこにあざがあって、これって朝とかご自宅でできたあざだったりしますか？」みたいな。「家ではなかったです」と言われたときは、学校で引継ぎ時確認が取れていないことと、事業所に来るまでの間の接触を伝えて謝罪することはあるので…。怪我とかはもれなく伝えてもらえると…。結局最後保護者と会って児童を引き継ぐのは事業所になってしまうので、学校から言って頂ければ、こっちもそれ以上怪我が無いようにとか、怪我の所を本人がいじったりとかが無いように、安全に過ごして自宅に返せるんですけど。うん、怪我とかは絶対もれなく伝えてほしい。』(E氏)

『うん、ほしい。』(G氏)

『(略)Y1さんが学校でお友達に叩かれてしまったようで、他の職員がお迎えに行ったら「どういう状況だったんですか？」って聞いたら、「いや、もうそれは保護者に伝えるので。」って遮られてしまったみたいで。なんかYさんも涙目でお迎えの車内でYさんに聞いて、やっとどういう状況かわかったという…ことがありまして。そんなにバツサリ切られてしまうとこっちも聞けないなって。』

(D氏)

体調に関する情報共有について、怪我に関する語りを得た。事業所に到着してから怪我に気がつき、怪我の経緯が分からなくなった事例や、学校側が保護者に連絡する前に放課後等デイサービスへ状況報告をすることを控える事例があった。利用児童の安全を保護するためにも、責任問題に発展することを防ぐためにも、「怪我の詳細な伝達」というニーズが見られた。

第6節 所属学校のホームページについて

第1項 質問紙調査の結果

「利用児童の所属学校のホームページを見ることはありますか」という質問に対し、「ある」と回答したのは5名(71.4%)、「ない」と回答したのは2名(28.6%)であった。

「ある」と回答した対象者に「どのようなページを見ますか」と質問したところ、表7に示す回答を得た。

表7. 学校ホームページ閲覧内容(複数回答可)

学校概要	月間予定表	活動の様子	給食の献立	地域の方へ	自作教材・教具の紹介	その他
2 (40%)	4 (80%)	2 (40%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)

(出典) 筆者作成

半数以上が「月間予定表」を学校のホームページで確認していた。一方、給食の献立のページや地域へ向けたページ、自作教材紹介のページは閲覧していなかった。

第2項 インタビュー調査の結果

『計画相談支援員の方から聞いたんですけど、今年から支援学校Aが学校公開日?年に3回前にやっていたのを、コロナで中止していたけど今年から再開したらしいよって。この間7月行ってきたみたいで、今度も行くって言っていました。』(G氏)

『それはどこが対象なの?』(H氏)

『あ、もう、皆さんです。支援学校Aのホームページに日程が出ているから、その日は自由に出入りしてよって日が。』(G氏)

『あ〜…そんなのお知らせしてくれなきゃ分からないよね。』(H氏)

『でも学校はお知らせしてくれないですよ。』(E氏)

『そう、してくれない。私も聞いて「そんなのあるのですか?!」って。そう

いった情報よく頂くのですが、支援学校Aは今年から再開だそうで。支援学校Bとか他の支援級とかは、ない。ただ、去年中学校の陸上記録会？を保護者から聞いて、勝手に見に行ったのはあります。』(G氏)

利用児童の所属学校のホームページについて、ホームページ上に掲載された学校からの情報提供を収集していない様子があった。A市の所在する都道府県の県立特別支援学校は情報量の充実した学校ホームページを設けており、研究公開の詳細の公表や、月間予定表、普段の活動の様子から使用している教具教材まで公開されている。学校側の情報提供の認識と、放課後等デイサービス側の情報提供の認識が異なることが示唆された。

第7節 その他共有の必要性を感じる情報

第1項 質問紙調査の結果

『これまでに伺った「支援方法・支援状況」、「障害特性・健康状態」、「所属学校のスケジュール」の他に、利用児童の情報について学校との共有が必要であると感じるものがありますか』という質問に対し、全ての対象者が「ある」と回答した。学校との情報共有が必要であると感じる項目について、選択を求めたところ表8に示す回答を得た。

表8. 学校との情報共有の必要性を感じるもの

家庭での様子	家庭のこと	放課後の様子	支援計画	その他
0 (0%)	2 (28.6%)	2 (28.6%)	7 (100%)	2 (28.6%)

(出典) 筆者作成

利用児童の支援計画については、全ての対象者が情報共有の必要性を感じていた。「その他」の自由記述では、「学校での様子」、「学校で取り組んでいる支援について」、「好きなものや苦手なこと」という回答を得た。

第2項 インタビュー調査の結果

インタビュー調査では、「支援計画」、「その他」の2つの項目に関わる語りを得ること

ができた。「家庭での様子」、「家庭のこと」、「放課後の様子」に関する語りは得ることができなかった。以下、得ることのできた語りとニーズを記載する。

1. 家庭での子どもの様子

インタビュー調査では、家庭での様子に関する情報共有についての語りやニーズを得ることができなかった。

2. 家庭のこと

インタビュー調査では、家庭のことに関する情報共有についての語りやニーズを得ることができなかった。

3. 放課後の様子

インタビュー調査では、放課後の様子に関する情報共有についての語りやニーズを得ることができなかった。

4. 支援計画

〈学校との直接の共有〉

『みなさんは個別支援計画を立てるときは、いろいろな情報を集める必要があるかと思うんですが、学校に状況を聞いたりすることはありますか。』(質問者)

『学校にはしたことはない…』(E氏)

『直接はない…んでしょう？保護者を通して学校ではどうですかというのはあるでしょう。』(H氏)

『はい。』(A氏)

『そのワンクッション。こう(学校へ真っすぐ)いきたいけど、こう(保護者を経由)みたいなの。』(G氏)

『あ、こう(学校へ真っすぐ)行きたいとは思いますが。』(質問者)

『気持ちは。だってやっている人に聞くのが一番だと思うから。お母さんによっては変換されてしまうこともあるから。』(G氏)

『あんまりできていないけれど、「ちょっとできてますよ」みたいな感じで言

われちゃうと…「本当か…？」みたいな。』(E氏)

『その逆もあると思うの。できているけど、見てほしいから「できていない」というお母さんもある可能性だってあるし。実際にしたことないからわかんないけど。やっている人に聞くのがやっぱり一番いいんじゃないかな、って思う。』(G氏)

個別の支援計画を立てるにあたり、現状のアセスメントを行う際に、支援を行う当事者である学校と「直接共有を行いたい」というニーズが見られた。保護者から間接的に聞くことによるニュアンスの変異や解釈違いを防ぐために、学校と直接やり取りをしたいという願いがあった。

〈学校作成の支援計画の閲覧〉

『ちょっと関連して、学校の方も個別の支援計画とか、教育支援計画を立てているのですが、そういったものは見たいとか、直接共有してほしいと思ったりしますか。』(質問者)

『あ～見たい。』(A氏)

『見たい。何してるのかなって。』(G氏)

『読み書き計算がどれくらいできますかっていうのを共通した尺度で、今どれくらいですってレーダーチャートみたいなのを、読みは結構できるでも書きはできないって、そういう凸凹が知りたい。』(H氏)

『気になる。具体的にこの子に対してどんな感じの声かけで、トイレはどういう支援の仕方をしているのかとか。』(E氏)

『そういうのが知りたい。』(A氏)

「学校が作成している個別の支援計画の閲覧」というニーズが見られた。支援計画の閲覧を通して知りたい情報として「読み書き計算の習熟度」や、「具体的な支援の方法」、「環境設定の様子」等があった。放課後等デイサービスでの子どもの活動の幅を広げるために、そして、より子どもに合った支援を提供するために、学校での支援の計画を知りたいという願いが感じられた。

5. その他の語りとニーズ

〈放課後等デイサービスに対する学校の認識〉

『もっとぼやっとしたものになってしまうことになるかと思うのだけれど、
「学校が放課後等デイサービスをどういう風に考えているのか」というか、
「どこまでの情報が放課後等デイサービス事業所に必要なのか」という考え方が
どうなのか、どう思っているのかなというのがある。(略)こっちは学校が
どれほど教えてくれるのか、まったく情報共有できていないので、学校がどん
な計画でこの子を支援しているかもよく分からない。お互いが分からない状態
だから、そこをまず改善しないと…。先生の方も「あ、こういうことでやって
いるのだったら色々教えなきゃ！」と思ってくれるかもしれないし。そこから
できていないのだろうなと感じます。』(A氏)

学校との情報共有において、双方の機関が情報開示の程度をはかりかねている現
状が示唆された。そのため、学校側が放課後等デイサービスに対してどの程度の情
報を開示する必要があると考えているか等、「放課後等デイサービスに対する学校の
認識」を知りたいというニーズが見られた。

〈忘れ物の取り扱い〉

『弁当持たせ忘れて取りに来てくれとかいう先生いるよな。忘れ物、もたせわ
すれて「取りに来てくれないか」みたいな。』(H氏)

『支援級Eはあります。「事業所のバックを持たせ忘れてしまった」と言われ
て、「学校は届けに行けない」と言われて。その時はたまたま支援学校Bから
事業所に帰る途中だったので、寄って受け取ることができたんですけど。「今
回はたまたま事業所への帰り道に寄れたのですが、できれば学校の方で届けに
来てください」って言っちゃいました。』(E氏)

『支援級Eは、支援級ができたばかりということもあって、いろいろあるな
と。長く通っている子がいる支援級だと、「水筒もたせわすれちゃったので、

今から届けに行きたいのですがいますか？」みたいな、逆に先生が事業所に職員がいるか確認してくれる。そういう先生もいる。』(E氏)

『(略)引継ぎの時に「忘れ物ない？」ってこっちの職員も確認していて、本人も「ない！」って言っていて。でも来たら、(水筒が)ないってなって。で、電話したら女性の先生が出て「あ、ロッカーにありました、取りに来てもらえますか？」って言われて。「こちらも確認していますし、活動中なので、届けてもらうことは可能ですか？」って。「あ、私は届けられないので、保護者に連絡してもらえますか？」って。「学校での忘れ物なので、学校さんから保護者に連絡してもらってもいいですか？」ってこっちも言い返して…(笑)。そしたら別の男性の先生が「届けに行くよ」って言ってくれたみたいで。』(G氏)

『支援級Bも同じことあります。「行けないです」って。で、お母さんに連絡したら、(先生が)「なんで保護者に連絡するんだ」って。』(F氏)

『それは結局学校が持ってきたの？』(H氏)

『持ってきました。』(F氏)

利用児童の学校での忘れ物について、学校によって対応に差があり、トラブルに発展する事例もあった。忘れ物発覚時の対応について、学校と放課後等デイサービス間で取り決めが行われておらず、その都度対応している現状があった。

〈特別支援学級の送迎車の停車位置〉

『校長の方針で、当時事業所の送迎車が学校の敷地内に入ることができなかったの。その理由が、「健常の子とぶつかるかもしれないから」。「事業所の車は外に止めてください」って、路駐とかで、雨の日も風の日も迎えに行って、2人担いでとかやってたんだろ?』(H氏)

『やってみました。』(E氏)

『でそれを、利用児童の保護者に話して、そのお母さんがアクションを起こしてくれて。じゃあいいでしょうってところまでもっていった。校長の方針で、車を止めていいとか止めてはいけないとか。あそこも昔だめだったじゃ

ん、C2くんの…』(H氏)

『支援級G。』(E氏)

『いくつかあったよな。』(H氏)

『支援級H…。』(E氏)

『そうだ支援級H!路駐して、1回D2くん降ろして、車椅子乗せて、E2くん連れてF2くん迎えに。』(H氏)

『ヤバイ!もう考えられないです今そんなの。』(G氏)

『あれは、うちの運転手のIさんが支援級Hの校長をよく知っていて、話してくれて、すぐ駐車できるようになった。あそこもそうだよな、支援級I。』(H氏)

『あー!そう、支援級Iは今も入れないです。私G2ちゃんつれて、抱っこしてH2くん迎えに行くとかやりました…。』(E氏)

特別支援学級への送迎の際に、敷地内への停車を許可されず、路上駐車をして引き継ぎを行うケースがあった。放課後等デイサービスとして依頼をしても受理されず、利用児童の保護者や校長と個人的な関係のある職員の働きかけによって敷地内駐車が可能になった事例もあった。

〈事業所連絡会の脆弱性〉

『A市の障害児支援は事業所連絡会の力が弱すぎる。事業所連絡会として、市の公立学校に圧力をかけるっていうのは健全なんだよ。本来ね。それが、もう全くないでしょ。(略)放課後事業所連絡会として、学校で忘れ物があったときは学校の責任で届けてくださいよとかね、例えばさ。送迎車は他の学校にも行くから下校時刻は守ってください、こっちは守りますけどとか。それをうちは個でやってるわけでしょ。そこが課題なんだよ。事業所連絡会が弱すぎる。だって、今年何回やったの?』(H氏)

『まだ1回です。結局次も研修をやるくらいと、合同事業所説明会の話くらいなので、A市の学校との協力体制をどうしようとかそういう話がそもそも議題に出てきていない。』(E氏)

『そういう問題もある。だから親御さんの力をかりればいいと思ってる。本来

はソーシャルアクションを起こすことは健全なことだから。』(H氏)

放課後等デイサービス職員が学校との連携において感じている課題について、事業所連絡会の力の弱さが一因であるという見解が示された。事業所連絡会の中で、学校との協力体制についての議題が挙がらないことから、放課後等デイサービスによって学校との連携を求める程度に差があることが示唆された。

〈新一年生の引き継ぎの充実〉

『(略)今年度事業所aが、支援学校Aから6人新規の児童が来ていて。最初ほとんど私がお迎えに行っていたと思うんですけど。その時にに関してはこっちが何も言わなくても「こうだったんです、ああだったんです。」って先生自身も緊張感をもっている。新しい子だし、児童自身も環境の変化でいつもと違う行動が見られるってところで、緊張感をもって伝えてくれていたと思うんですけど。そういうのが他の学年でも出来たら、もっとこっちも満足いくし、先生たちも本当は教えたいかもしれない情報を十分に伝えられるのかなって思いますね。まあでも実際は難しいところがあると思うんですけど。』(C氏)

特別支援学校小学部新1年生の引き継ぎに関して、教職員から自発的に詳細な引き継ぎを受けている事例があった。引き継ぎ内容に差が生じる理由として、担当教職員によるもの以外にも、学部や学年、児童の実態によるものがあることが推察された。

〈学校・家庭間の情報共有不足〉

『(略)この間K2くん家送っていったときに、学校から「手が出るが多かった」と引継ぎをもらったので、お母さんに「今日学校で手が出るが多かったみたいなんですけど…」っていう話をしたら、「そうなんですか！そんなこと学校から聞いたことありません。学校から全然そういう話ないので、何か聞いたら教えてください。」って逆に学校と家庭もあんまり共有ができていないんだなってことがあって。情報共有って難しいなって改めて感じました。』(C氏)

学校と家庭の間においても、情報共有の不足する事例があった。他害等の保護者に報告しづらい内容は、保護者に連絡する前に放課後等デイサービスに共有されていることが示唆された。

第4章 情報共有のニーズと今後の連携の在り方

本章では、調査により明らかになった情報共有のニーズや、現状における連携課題を整理し、今後の放課後等デイサービスと学校との連携の在り方について検討する。

第1節 連絡帳の一体化

調査で明らかになったニーズや課題を解消する方法の一つとして、「連絡帳の一体化」が考えられる。インタビュー調査では、送迎の引き継ぎ時において『(略)その情報がある程度まとめたものをポンと言っていただければいいんですけど…(略)』(本論文:11)という語りに見られるように、「まとめた情報の伝達」というニーズが抽出された。これは「時間の不足」という解消しきれない課題から生まれたニーズであり、学校教職員は端的に具体的な情報を提供するスキルを求められていた。しかしながら、『「私担当じゃないから知りません」とストレートに言われてしまって(略)』(本論文:12)という語りに見られるように、「対応教職員によって情報共有の質が変化する」という課題が明らかになった。特別支援教育は複数の教職員で教育活動にあたるため、引き継ぎを担当する教職員が放課後等デイサービス職員の求める情報を有していない場合があった。

他にも、『(略)「ちょびっと」ではなくて「何がどの程度食べられたか」というのを知りたくて(略)』(本論文:24)という語りに見られるように、「具体的な情報の共有」等、伝え方に関して改善を求めるニーズがあった。また、学校と放課後等デイサービスの口頭での情報共有は共有内容が定められておらず、日々変動している現状があった。

上記のようなニーズや連携課題を軽減する方法として、現状では学校と事業所それぞれに分かれている連絡帳を1つに一体化することが考えられる。お互いの活動の様子や支援の様子が見えるようになると、送迎の引き継ぎ時に焦って情報共有をする必要がなくなり、対応教職員による差を感じずに済む。

また、調査では『(略)学校でどのような支援をしているのかは家庭も事業所も共有できるといいかなと。』(本論文:18)という語りに見られるように、「支援方法の三者間(家庭・学校・事業所)共有」というニーズも明らかになった。これも連絡帳の一体化により解消され则认为。そして、『(略)あきらかな、手当てをしたなら言ってほしいなと思いますね。事業所についてから気づくこともあったりして、送迎車でできてしまったものなのか学校なのか分からなくなってしまう。』(本論文:31)という語りや、『(略)学校から言って頂ければ、こっちもそれ以上怪我が無いようにとか、怪我の所を本人がいじったりとかが無いように、安全に過ごして自宅に返せるんですけど。うん、怪我とかは絶対もれなく伝えてほしい。(略)』(本論文:31)という語りに見られるように、「対応の報告」、「怪我の詳細な伝達」等のニーズについても、連絡帳の一体化によって共有されやすくなると考える。

しかしながら、連絡帳の一体化が実施されていないことから分かるように、連絡帳の一体化には課題がある。まず、連絡帳のフォーマットを特別支援学校が作成する必要があることだ。放課後等デイサービスがフォーマットを作成し実施すると、放課後等デイサービスによって差が生じ、連携の質に影響が生じることが懸念される。連携差を生まないためには学校側がフォーマットを用意し、一斉に開始する必要がある。開始までには学校側がすべての保護者や事業所へ企画・提案・説明を行わなくてはならず、負担が大きい。さらに、印刷や用紙の費用の問題も生じる。また、学校や放課後等デイサービスによっては互いの連携を望まない場合が考えられる。したがって、連絡帳の一体化は段階的に少しずつ進めていく必要がある。まずは、現状にも行われているように、互いの機関の連絡帳を閲覧する許可取りから始めることが現実的であるとする。

第2節 支援計画の共有

調査では、『具体的にこの子に対してどんな感じの声かけで、トイレはどういう支援の仕方をしているのかとか。』(本論文:35)という語りに見られるように「支援方法の共有」を求める声があった。また、「同学年の子どもとのかかわり方の共有」(本論文:28)というニーズも抽出された。このように、支援計画に上がるような項目において情報共有を求める声が見られた。さらに、「支援計画の閲覧」(本論文:35)というニーズも抽出された。放課後等デイサービスを利用する中で見られる子どもの行動や課題に対して、学校でも同じことが見られるのかどうか、どのように対応しているのか等、所見を共有し合いたいとい

うニーズがあった。しかし、文献調査では、個別の支援計画を共同で作成したり、提供し合ったりする動きが希薄なことが明らかになっている。

この要因として2つのことが考えられる。1つ目は「共同作成・提供にかかる苦労が大きいこと」である。作成にあたり連絡を取り合う時間的な問題、書類を交換する際の個人情報保護の問題など、様々な課題が存在する。また、複数の放課後等デイサービスを利用する児童生徒の場合、放課後等デイサービス同士での連携も必要となる。さらに、放課後等デイサービスの個別の支援計画は、利用児童によって計画更新の時期が異なるため、学校ごとに一括で共有することが難しい現状がある。2つ目は「それぞれの機関によって子どもの姿が異なること」である。教育的な観点から児童生徒を見た場合と、福祉的な観点から利用児童を見た場合とで、支援計画に取り入れる子どもの姿が異なることが想定される。

上記のようなニーズや課題を軽減する方法として、支援計画の共有が考えられる。支援計画の共同作成ではなく、「共有」という点が重要である。共有であれば、負担が増えすぎることなく、それぞれの場で行われている教育活動や支援活動を理解し、活用することができる。また、支援の統一をはかることができ、支援状況を共有し合うきっかけになり得る。共有の方法としては、特別支援教育コーディネーターを通じた直接の共有、又は保護者経由の共有が望ましいと考える。送迎の引き継ぎ時にその場を担当した教員を通して個別の支援計画を共有することは、個人情報保護の観点からみてリスクが高い。また、共有に際して対応教職員が定まっているほうがやり取りがしやすいと考える。

しかし、支援計画の直接の共有に関しては、個人情報の保護の観点から、学校長や教育委員会の許可が必要である可能性があり、教員単位では判断できないことが想定される。そのため、個別支援計画の共有の意義や効果について社会的に検証される必要があり、すぐに実行することが難しい。保護者を經由して情報を得る方法が最も現実的であるといえる。

第3節 見学の実施（ホームページの活用）

調査では、情報共有のために「担任の把握」（本論文:13）というニーズが抽出された。また、『(略)学校がもうちょっとオープンになって、事業所が見に行けるようになると…。逆に学校の先生も事業所に見に来るみたいな環境ができるといいなっていう。』（本論文:20）

という語りに見られるように、「学校のオープンな情報開示」というニーズが抽出された。利用児童の学校の様子を自分の目で見てアセスメントしたいという思いから、B市のような放課後等デイサービスにまで開かれた学校を羨む声があった。また、現状の学校の対応や協力体制に疑問を抱き、「放課後等デイサービスに対する学校側の認識」（本論文:36）を知りたいというニーズもあった。

コロナ禍の影響を受けて控えられていた交流を再開することで、双方機関の理解を深めることができ、上記のニーズや課題を解消することができる。しかし、学校の情報開示の程度には地域差や学校差があり、放課後等デイサービス事業所を地域の重要な連携対象として捉えていない学校もあることが示唆される。また、調査では、特別支援学校がホームページで発信している「公開授業研究」という見学の機会を利用していない様子があった。放課後等デイサービスが学校のホームページを活用し、学校見学の機会に参加意思を示すことで、学校が放課後等デイサービスを重要な連携機関として認識するきっかけになると考えた。

ホームページは、学校の活動の様子や月間予定等を得るためにも活用可能である。放課後等デイサービス事業所もホームページや SNS を設けていることが多く、活動の様子が公開されている。学校と放課後等デイサービスが互いのホームページを連携の 1 つの方法として捉えることで、連携の幅が広がると考える。

第 4 節 放課後等デイサービスに関する理解の促進

調査では、『(略)その後事業所がどんな風に動いているのかとか、そういうのを多分知らないと思うから、そういうのを分かってもらったりとか、下校時刻がどれだけ市でかたまっているのかとか、そういう現状を知れば、もう少し送迎に関しては改善できることがあったりとかするのかな。(略)あと、乗せ込みとか。(略)』（本論文:14）という語りに見られるように「送迎状況の把握」、「乗せ込みの協力」等、送迎時の理解や協力を求める声があった。また、排泄に関して、『支援級 C だと、普通に「最後トイレに行けていなくて、もう(紙パンツが)パンパンだと思うのでよろしくお願いします。」って言われるんですよ。「えっ、分かっているなら変えてから来てもらってもいいですか…」みたいな感じで…。(略)』（本論文:26）という語りに見られるように「支援を済ませてからの引き継ぎ」というニーズもあった。送迎順によっては引継ぎの 30～60 分後に事業所に到着する場合もあ

り、最低限の支援を済ませてからの引き継ぎが望まれた。

上記のようなニーズや課題は、放課後等デイサービスに対する教員の理解が進んでいないことが一因であると考える。自分自身、明治学院大学社会学部社会福祉学科の教職課程で約4年間学んできたが、放課後等デイサービスが講義で取り扱われたことは一度もなかった。教職課程を学ぶ学生が、放課後等デイサービス等学校との連携機関について深く学ぶ機会が無いことで、連携課題や連携のしづらさが生じているのではないか。教職課程の学生が経験する介護等体験において、高齢者施設ではなく、障害者施設や放課後等デイサービスが受け入れ先として充実することを望む。

終章

本論文では、放課後等デイサービス職員が特別支援学校又は特別支援学級に対してどのような情報共有のニーズを抱いているのかを明らかにすることを通して、今後の放課後等デイサービスと学校との連携の在り方について検討することを目的とした。

調査の結果、情報共有のニーズとして「まとまった情報の提示」、「口頭以外の情報共有の方法」等情報共有の方法や内容に関することから、「担任の把握」、「乗せ込みの協力」等学校の対応に改善を求めるものまで幅広く意見が抽出された。また、学校との連携における課題も多く抽出された。先行研究でも明らかになっていた「時間の不足」、「担当教職員による対応の差」等に加え、さらに現状に踏み込んだ「駐車場のトラブル」や「学校種(特別支援学校・特別支援学級)による対応の差」、「事業所連絡会の脆弱性」といった課題が抽出された。

明らかになったニーズや現状に対して、4つの提案を行い、連携の在り方の検討とした。1つ目は「連絡帳の一体化」である。引継ぎの不足や時間の不足を解消する方法として効果的であると考えた。2つ目は「支援計画の共有」である。共同作成よりも負担がなく、双方機関の支援指導に役立つ重要な連携方法であると考えた。3つ目は「見学の実施(ホームページの活用)」である。双方機関のホームページを有効に活用することで、互いを重要な連携機関として認識するきっかけになると考えた。4つ目は「放課後等デイサービスに関する理解の促進」である。教職課程の学生が学校の連携機関を学ぶ機会を得ることや、介護等体験で障害者施設や放課後等デイサービスを訪問することが重要であると

考えた。

一方、本論文は、A市にある5つの事業所に限って調査を行った。その為、地域による差や放課後等デイサービスによる差を検証することができなかった。また、学校側の意見を聴取することができず、連携の在り方について双方の意見をふまえた上での検討を行うことができなかった。さらに、筆者のインタビューの技術が未熟であるために、聞き出すことのできなかつた項目もあった。

今後、特別支援学校教諭として勤務する中で、学校側として感じる放課後等デイサービスとの連携課題やニーズを把握し、自分なりに連携の促進に向けて努めていきたい。放課後等デイサービスと学校との交流が少しでも増え、より子どもに合った支援方法が発見され、より子どもが過ごしやすい環境づくりが行われるようになることを望む。また、教職課程で学ぶ学生に、学校の連携先を学ぶ機会が与えられることを望む。「開かれた学校」とは一体何か、連携先も視野に入れながら考える機会が必要であると感じる。

謝辞

本論文の作成にあたり、終始あたたかいご助言をいただいた高倉誠一先生に深く感謝申し上げます。

調査対象の放課後等デイサービス職員の皆様におかれましては、日頃からご指導をいただき、お忙しい中にも関わらず調査に快く協力していただき、ありがとうございました。調査終了後にも関連する事例をその都度お聞かせいただきました。皆様のあたたかいお心遣いに深謝いたします。そして、インタビュー調査数日後に旅立たれた、筆者の父でもある責任者のH氏には、調査先の放課後等デイサービスと出会うきっかけを提供していただきました。素敵な職員・利用児童・保護者の皆様との出会いに深謝申し上げるとともに、この場を借りてH氏への敬意と感謝の意を表します。

引用・参考文献

厚生労働省,2015,『放課後等デイサービスガイドライン』

- <https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12201000-Shakaiengokyokushougaihokenfukushibu-Kikakuka/0000082829.pdf>) 2023.10.22 閲覧.
- 厚生労働省,2021,『障害者総合支援法改正法施行後3年の見直しについて 中間整理』
(<https://www.mhlw.go.jp/content/12601000/000867738.pdf>) 2023.10.23 閲覧.
- 厚生労働省,2022,『児童発達支援・放課後等デイサービスの現状等について』
(<https://www.mhlw.go.jp/content/12401000/001023067.pdf>) 2023.11.12 閲覧.
- 香野毅,2021,「障害のある子どもたちの新たな学びの場としての放課後等デイサービス : 連携と専門性という課題に焦点をあてた調査と実践事例」
(<https://shizuoka.repo.nii.ac.jp/record/13187/files/9-0001.pdf>) 2023.11.20 閲覧.
- 式本裕耶・古井克憲,2021,「特別支援学校と放課後等デイサービスとの連携に関する現状と課題 : 教員へのアンケート調査より」
(<http://repository.center.wakayama-u.ac.jp/4196>) 2023.11.20 閲覧.
- 中村雅子・津田太一,2020,「外部リソースを活用した学校経営に関する考察-特別支援教育における学校と放課後等デイサービスの連携の在り方-」
(<https://tk-opac2.main.teikyo-u.ac.jp/webopac/TC70001231>) 2023.11.20 閲覧.
- 西原数馬・阿部崇・小曾根和子・柘植雅義,2018,「<実践報告>千葉県内知的障害特別支援学校による放課後等デイサービスとの情報交換・連携の取組に関する研究 : 学校側への調査と実践研究を通して」
(https://tsukuba.repo.nii.ac.jp/record/46194/files/SNER_12-95.pdf) 2023.11.20 閲覧.
- 松山郁夫,2021,「知的障害特別支援学校小学部教員における放課後等デイサービスへの見方」
(https://saga-u.repo.nii.ac.jp/record/23397/files/matsuyama_202109_2.pdf)2023.11.20 閲覧.
- 文部科学省・厚生労働省:家庭と教育と福祉の連携「トライアングル」プロジェクトチーム, 2018,『別添1 家庭と教育と福祉の連携「トライアングル」プロジェクト報告』
(https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2018/06/11/1405916_02.pdf) 2023.10.22 閲覧.
- 渡邊,美帆子・渡邊流理也・奥住秀之,2021,「特別支援学校と放課後等デイサービス事業所の連携促進へ向けた課題 : A市における特別支援学校教員と放課後等デイサービス事業所職員への質問紙調査から」

[https://niigata-u.repo.nii.ac.jp/record/2000010/files/13\(2\)_211-218.pdf](https://niigata-u.repo.nii.ac.jp/record/2000010/files/13(2)_211-218.pdf) 2023.11.20

閲覧.

令和5年8月29日

社会福祉法人〇〇〇〇〇 殿

付録1

貴事業所職員（児童発達支援管理責任者）への
インタビュー調査について（お願い）

謹啓 時下ますますご清栄のことと、お慶び申し上げます。私、青木彩恵は明治学院大学社会学部社会福祉学科に在籍し、「特別支援学校と放課後等デイサービスの連携」についての卒業研究を進めております。

今回は「放課後等デイサービスからみた特別支援学校・学級との情報共有のニーズ」というテーマで、「放課後等デイサービス職員が特別支援学校又は特別支援学級に対してどのような情報共有のニーズを抱いているのか」を明らかにしたいと考えております。

そこで、児童発達支援管理責任者の方々を対象にグループインタビューを計画いたしました。つきましては、お時間が許す範囲でご協力願えますと幸いです。グループインタビューは9月12日（火）19時30分より事業所Eをお借りして1時間程度実施させていただく予定です。質問の内容は学校との情報共有に際する具体的なエピソードをお伺いするものが中心となる予定です。

この調査は、あなた様にご迷惑のかかることがないように、個人情報の保護に細心の注意を払っておこないます。すべての質問に答えていただくかなくても結構ですし、ご希望の場合は途中でインタビューを中止していただくことも可能です。もし可能であれば、インタビューはボイスメモにて録音させていただきますが、録音データは厳重に保管いたします。インタビューの内容は文字で書き起こすこととなりますが、プライバシーに関する事柄についてはすべて匿名で処理いたします。この調査についてのお問い合わせがございましたら、下記の連絡先までお願いいたします。

お忙しいところ勝手なお願いで大変恐縮ですが、何卒趣旨をご理解いただきご協力を賜りたくお願い申し上げます。ご協力いただける場合は、別紙の調査票にご回答の上、9月8日（金）20時までに青木彩恵まで直接、又は室長宛のレポートボックスまでご提出ください。

明治学院大学社会学部社会福祉学科4年 青木彩恵

調査に関する Q&A

今回実施する調査や調査票について、Q&Aの形で回答させていただきます。この調査の理解に役立てれば幸いです。

明治学院大学社会学部社会福祉学科 青木 彩恵

いつ・どこでインタビューに対応するのですか？

9月12日(火)、19時30分より事業所eをお借りして実施させていただき予定です。インタビュー時間は1時間程度を想定しております。ご都合の良い日時が一致しない場合は、グループを分けて実施、または個人インタビューへ変更させていただく場合があります。

どうしてインタビューを録音するのですか？

録音する許可をいただいた場合のみ、インタビューを録音させていただきます。録音することによって、インタビュー内容を正確に記録することができます。インタビューの録音に不都合があるとお考えの場合は、その旨をお伝えください。

インタビューの内容はどのように使うのですか？

私の卒業論文を執筆するために使用させていただきます。論文の中で、インタビュー内容を匿名の発言として一部引用させていただきます場合があります。

回答者のプライバシーは確保されるのですか？

回答者の皆様のプライバシーを守ることは最も重要なことであると認識しております。そのため、次のような3つの手続きをお約束いたします。

- (1)回答は、匿名処理させていただきますので、個人のお名前や所属などが特定されることはありません。また、法人名や事業所名も使用せず、「A県のとある放課後等デイサービス」・「事業所A」という形で執筆いたします。
- (2)インタビューを録音した場合、論文の執筆を終えた時点で録音データを抹消いたします。
- (3)調査票にある回答者の個人情報(論文の執筆を終えた時点でシュレッダーにかけて抹消しますので、記録として残すことはありません)。

調査表について、学校種・人物・状況等によって回答が変わる場合はどのように回答すればよいのですか？

学校種・人物・状況等を総合的にご判断いただき、ご回答いただけますと幸いです。差異にまつわる詳細なお話をグループインタビューにてお聞かせ願います。

付録3

「放課後等デイサービスからみた特別支援学校・特別支援学級との情報共有のニーズ

～放課後等デイサービス職員への聞き取り調査を基に～」調査票

明治学院大学社会学部社会福祉学科4年 青木 彩恵

これからお伺いすることは、あなた様ご自身の情報や経験などです。インタビュー調査に先立ち、放課後等デイサービスと特別支援学校・特別支援学級との間でどのような情報共有の現状があるのかを把握するために実施させていただきます。お時間が許す範囲でご協力願えますと幸いです。

この調査は、あなた様にご迷惑のかかることがないように、個人情報の保護に細心の注意を払っておこないます。答えにくい質問や答えたくない質問に関しては、お答えいただかなくても構いません。

お忙しいところ勝手なお願いで大変恐縮ですが、何卒趣旨をご理解いただきご協力を賜りたくお願い申し上げます。

はじめに、学校との情報共有の現状についてお伺いします。

該当するものに○をつけてください。

1. 学校と利用児童に関する情報を共有したことはありますか。

(1)ある (→質問番号1-1へお進みください。)

(2)ない (→質問番号2へお進みください。)

1-1. 質問番号1にて、あるを選択した方にお伺いします。学校との情報共有において、経験したことのある方法を教えてください。(複数回答可)

(1)送迎の引き継ぎ時 (2)電話 (3)書面 (4)保護者経由 (5)カンファレンス等
(6)その他 ()

1-2. 学校との情報共有において、最も頻度の高い方法を教えてください。

(1)送迎の引き継ぎ時 (2)電話 (3)書面 (4)保護者経由 (5)カンファレンス等
(6)その他 ()

2. 利用児童の所属学校のスケジュール（年間計画・行事予定・下校時刻等）について学校と情報共有したことはありますか。

(1)ある（→質問番号 2-1 へお進みください。）

(2)ない（→質問番号 2-2 へお進みください。）

2-1. 質問番号 2 にて、 ある を選択した方にお伺いします。利用児童の所属学校のスケジュールに関する情報について、学校とどの程度共有できていますか。

(1)十分 (2)やや十分 (3)どちらともいえない (4)やや不足 (5)不足

(6)その他（ ）

2-2. 質問番号 2 にて、 ない を選択した方にお伺いします。利用児童の所属学校のスケジュールをどのように把握していますか。

(1)保護者経由 (2)学校の HP から (3)その他（ ）

3. 利用児童に対する支援方法・状況について学校と情報共有をしたことはありますか。

(1)ある（→質問番号 3-1 へお進みください。）

(2)ない（→質問番号 4 へお進みください。）

3-1. 質問番号 3 にて、 ある を選択した方にお伺いします。

食事の支援に関する情報について、学校とどの程度共有できていますか。

(1)十分 (2)やや十分 (3)どちらともいえない (4)やや不足 (5)不足

(6)その他（ ）

3-2. 排泄の支援に関する情報について、学校とどの程度共有できていますか。

(1)十分 (2)やや十分 (3)どちらともいえない (4)やや不足 (5)不足

(6)その他（ ）

3-3. 更衣の支援に関する情報について、学校とどの程度共有できていますか。

(1)十分 (2)やや十分 (3)どちらともいえない (4)やや不足 (5)不足

(6)その他（ ）

3-4. 移動の支援に関する情報について、学校とどの程度共有できていますか。

- (1)十分 (2)やや十分 (3)どちらともいえない (4)やや不足 (5)不足
(6)その他 ()

3-5. 強度行動障害等に関する支援について、学校とどの程度共有できていますか。

- (1)十分 (2)やや十分 (3)どちらともいえない (4)やや不足 (5)不足
(6)その他 ()

3-6. 意思表示(コミュニケーション方法)の支援に関する情報について、学校とどの程度共有できていますか。

- (1)十分 (2)やや十分 (3)どちらともいえない (4)やや不足 (5)不足
(6)その他 ()

4. 利用児童の障害特性や健康状態について学校と情報共有をしたことはありますか。

- (1)ある (→質問番号 4-1 へお進みください。)
(2)ない (→質問番号 5 へお進みください。)

4-1. 質問番号 4 にて、 ある を選択した方にお伺いします。

服薬に関する情報について、学校とどの程度共有できていますか。

- (1)十分 (2)やや十分 (3)どちらともいえない (4)やや不足 (5)不足
(6)その他 ()

4-2. 発作(てんかん発作・喘息発作・パニック発作等)に関する情報について、学校とどの程度共有できていますか。

- (1)十分 (2)やや十分 (3)どちらともいえない (4)やや不足 (5)不足
(6)その他 ()

4-3. 発病・発熱・排泄状況等、体調に関する情報について、学校とどの程度共有できていますか。

- (1)十分 (2)やや十分 (3)どちらともいえない (4)やや不足 (5)不足
(6)その他 ()

5. 利用児童の所属学校のホームページを見ることはありますか。

(1)ある (→質問番号 5-1 へお進みください。)

(2)ない (→質問番号 6 へお進みください。)

5-1. 質問番号 5 にて、 ある を選択した方にお伺いします。

どのようなページを見ますか。

(1)学校概要 (2)月間予定表 (3)活動の様子 (4)給食の献立 (5)地域の方へ

(6)自作教材・教具の紹介 (7)その他 ()

6. これまでにお伺いした「支援方法・支援状況」・「障害特性・健康状態」・「所属学校のスケジュール」の他に、利用児童の情報について学校との共有が必要であると感じるものはありますか。

(1)ある (→質問番号 6-1 へお進みください。)

(2)ない (→質問番号 7 へお進みください。)

6-1. 質問番号 6 にて、 ある を選択した方にお伺いします。学校との情報共有が必要であると感じる項目を教えてください。

(1)利用児童の家庭での様子 (2)利用児童の家庭のこと

(3)利用児童の放課後の様子 (4)利用児童の支援計画

(5)その他 ()

最後に、あなた様ご自身のことについてお伺いします。
該当するものに○をつけてください。

7. あなたの所属事業所を教えてください。

(1)事業所 a (2)事業所 b (3)事業所 c (4)事業所 d (5)事業所 e

8. あなたの役職を教えてください。(複数回答可)

(1)管理者 (2)児童発達支援管理責任者 (3)その他 (_____)

8-1. 質問番号 2 にて、 児童発達支援管理責任者 を選択した方にお伺いします。

児童発達支援管理責任者として従事している年数を教えてください。

_____ 年

9. (当該法人名)におけるあなたの勤続年数を教えてください。

_____ 年

10. あなたの所有資格について教えてください。(複数回答可)

(1)社会福祉士 (2)精神保健福祉士 (3)介護福祉士 (4)保育士

(6)教員免許(校種: 小・中・高・特)

(7)その他 (_____)

質問は以上です。お忙しい中、ご回答いただきありがとうございます。

本紙は青木彩恵まで直接お渡しいただくか、事業所 a 事務所の室長宛のレポートボックスまでご提出ください。よろしく願いいたします。

付録 4

実施日時:2023年9月12日20時から22時

対象:児童発達支援管理責任者7名・責任者1名

方法:グループインタビュー

<p>質問者</p>	<p>では、始めさせていただきます。よろしくお願いいたします。</p> <p>まず、事前の調査票で多くの方が情報共有の「不足」や「やや不足」に○をつけてくださった項目についてお伺いしたいと思います。質問番号3で利用児童に対する支援方法・状況についてお伺いしたのですが、その中で皆様が「不足」か「やや不足」とご回答されたのが、3-1の食事の支援に関することでした。</p> <p>そここでお伺いしたいのが、「食事の支援に関する学校との情報共有について、不足していると感じる情報や、共有の必要性を感じる情報等があれば自由に教えていただきたいです。」…食事の支援についてどうですか。</p>
<p>Hさん</p>	<p>食事だから、食事形態もあるし、使っている食具もあるし、自分でどこまで食べられるかとか、食の嗜好はあるのかとか、そんなのを全部ひっくるめての食事かな？</p>
<p>質問者</p>	<p>はい！</p>
<p>Eさん</p>	<p>事業所cでは、給食がほとんど食べられないっていう、自閉症のこだわりで決まったものしか食べないっていうAI(利用児童)さんがいて、保護者も給食がどのくらい食べられているかというのはすごく気にしているので、引継ぎ時には必ず給食をどの程度摂取したのかというのを聞いてほしいという風に保護者から言われていて、一応保護者から担任の先生にもその旨は伝えてもらってはいるのですが、先生が覚えていてくれない限り先生から食事の話は来ないです。なので、こちらが忘れずに聞かないと、教えてもらえないことが多くて。その内容も日によってすごくバラバラで、「ちょびっと食べられています」とか…「ちょびっと」ではなくて「何がどの程度食べられたのか」というのを知りたくて。主食なのか主菜なのか副菜なのか、それもこっちから聞かないと言ってもらえないので、毎回そこで時間が取られちゃう…。先生も分かっているなら、その情報がある程度まとめたものをポンと言ってくれればいいんですけど…保護者から言われているはずなのに何で毎回この先生覚えてくれないんだろうというのはあります。</p>
<p>Hさん</p>	<p>毎回同じ先生？</p>
<p>Eさん</p>	<p>支援級Aなので、毎回同じ先生なんですけど、どうしてもやっぱり事業所の職員に対してはさらっと流して、保護者が迎えに来ている児童をメインに。保護者と話をしたいので、事業所が迎えに来る児童に関しては「今日食べてまーす」みたいな。「元気でーす、食べれてまーす」みたいな感じで。言ったらもう他の保護者の所に行ってしまう。もうちょっと、どこまで、全量摂取したのか、それとも半量なのか、一口なのかというところまで聞きたくても聞きづらいですね。結局他の保護者の所に行ってしまうと、それ以上突っ込んで聞くにも聞きにくくて。子どもたちも、もう、はやく行きたかったりとかして。支援級はそんな感じ…。</p>

	<p>支援学校では、支援学校 A の B1さん(利用児童)は、嚥下がうまくできないというところで、基本的には家から持ってくるものはペースト食。学校では離乳食の後期だったり、きざみ食を行ったり来たりしている児童なんですけど、基本的に学校で給食時どうだったかというのは特に報告がなくて。よっぽどの、「スープの具材が詰まって嘔吐してしまった」ぐらいの報告はあるんですけど。基本的にどの程度食べられた、というのはないですね。摂食指導を受けている子も何人かいるんですけど、特にそこまで…基本的には学校と家庭がメインになるようなので、事業所にはなにも言ってくれないです、よっぽどのことがない限りは。食事がとれていないという時には一言くれることはあるんですけど、「お腹が空いているかもしれません」みたいなことはあるんですけど。基本的にはこっちが気になって聞かない限りはかえってこないことの方が多いな、という感じはあります。</p>
質問者	<p>ありがとうございます。いまお話しいただいたように、「もうちょっとこういう情報が欲しいんだけど…」というご経験が他に、ある方がいらっしゃれば…</p>
Fさん	<p>事業所 d も事業所 c と同じようなところがあって、もっとひどいのが、「私担当じゃないから知りません」とストレートに言われてしまって。「でも担当の先生今日お休みかなんかでいないですよ」という状況なのに、「いや分からないですね見てないから」という…。</p>
Eさん	<p>でもわかる…。引き継ぐ先生が本人の担任ではない時もあるので。養護学校 A とか特にあるんですけど。排泄のこととかでも、「あ、僕担任じゃないので、ちょっと分かりません」と言われて、毎回確認している内容が確認できないなということは結構あります。</p> <p>担任の先生が不在とか休みって仕方ないじゃないですか。支援級 A とか体調不良で来ないことの多い先生がいて。児童のお母さんから「やめちゃうんじゃないか」みたいな心配の声を聴いたりもして。支援級の担任の先生同士でうまく、「この子を引き継ぐときにはこういう情報をいつも伝えている」ということが担任同士とか先生の中で共有がされていないんだろうなと感じることがあります。</p>
Fさん	<p>メニューとかも、「これ食べた」「ちょこっと食べました」とか報告を受けて。でもお母さんに聞いた今日のメニューに比べると「どれに入ってるんだろう？」という…。このお母さんの書いているメニューと先生の言っているメニューが「ん?!」というようなこととかもあって。スープ系とか果物系だと食べることがあると書いてあるけど、先生から聞くのは副菜系のもので、なんか話がずれてしまうようなところもあって。その子は支援級 B の子で、主食としてご飯を食べてきていればおにぎりは提供しないというところで、おにぎりを提供するかしらないかに関わってくるので、きちんと教えてほしいんですけど、そこが返ってこないことがよく…</p> <p>反対に支援学校 B の C1くん(利用児童)の担任は、全部教えてくれる。朝から帰りまでの、彼の気持ちからすべて。</p>

Gさん	代理で行っても、全部教えてくださいよ。だから全部お伝えするのですけど。
Eさん	白髪交じりの男性のすごい先生
Aさん	ノリのいい先生？
Eさん	ノリのいい先生です、去年DIくん(利用児童)の先生だった先生です。
質問者	それは…何をどのくらい食べましたということまで教えてくださいませんか？
Fさん	全部教えてくださいし、朝からの彼の情緒の変化「こういうところでこんな風につまずいていた」とか、「こういうことして気持ちが変わった」とか。起承転結まで全部教えてください。
質問者	そういう方もいらっしゃるんですね…ほかに食事関連ありますか？
Bさん	私、ほとんど支援学校 A に迎えに行くんですけど、食事「量」は割と…、Eくん(利用児童)とかは補食を持って行ったりして。食事の量が安定していない子は比較的「どのくらい食べました」というのは言ってきてくれる。「支援」の面、食具とか、「どんなものを使っているか」というやり取りまでは…。時間もないし、次から次へとどんどん車に連れて行かなきゃいけなくて、こっちもゆっくり話をする時間が無いので…。 以前 F1さん(利用児童)のお母さんと面談をした時に、「学校では台?の上に乗せると、食べこぼしなく食べれてるみたいです。」ということをお母さんから聞いて、こっちもやってみたら確かに食べこぼしがなく済んだことがあって。食事量は学校に行くときにやりとりができるけれど、どんな支援をしているかまでは時間の問題とかもあって難しいなという風に感じています。なんか…違う共有の仕方があればいいなという風に。
Gさん	すごい分かる。個別で、こっちで立てている個別(支援計画)で、食事の…「自分で食べる」とかいうのを立てている児童中にはいるから、それが給食でできているのかどうかといところ。支援学校 A の子なんだけど、…ね。聞けないよね。
Bさん	聞けない…。なんかもう、どんどん車も入ってきちゃうし、早く出なきゃいけないし、みたいな。引継ぎの時にその情報を共有するのは難しい…。
Gさん	それは不足しているよね。時間がそもそも不足しているから…。それだけじゃないじゃん、食事だけじゃないから聞かなきゃいけない内容も。食事だけにフォーカスして聞ければあれだけど、その日のトイレも聞かなきゃいけないし、情緒も聞かなきゃいけないし、着替えたのかとか、なにをしたのかとか、「今日これ持ってきています」とか他の情報も、一人に対していっぱいあるから、聞きたくても聞けないというのはあるよね…。
Eさん	計画相談が入っていれば、学校でどういうことをしているかということを知ってもらえる。でも事業所が学校に「どんな形でやっていますか？」と聞くことをあまりよく思っていない…。「計画相談を通してください。」とか、「そういうものは保護者から聞いてください。」みたいな感じになるので、「学校でどういう支援をしていますか」というところを、なんとなく計画相談とか保護者から、みたいな。学校でのことは一事業所にはそこまで詳しく教えてくれるイメージは…
Aさん	ない。

Gさん	ない。
Eさん	ない。先生と話せる時間が引継ぎの時という、短い時間なので、先生たちもそこで一人の児童に時間をかけることはできないのかなという感じはありますね。
Fさん	はやく連れて帰ってくれみたいな感じもある…
Eさん	そうそうそうそう。
Gさん	あるある。
Eさん	言葉と一緒に本人も送るみたいな。「変わりありませーん」って。「あ、分かりました！」という時には先生もういない、みたいな。
Gさん	「あぁっ…」ってなる。
Eさん	そうそう、聞きたかったことがあるのに…!」みたいな。先生はもう渡す事だけがあれなので、こっから聞かれることをあまり想定していない感じもありますね。
Hさん	じゃあ他の(運営母体の)事業所はあんまり聞かないの？
Eさん	やっぱりトイレとか、ご飯どれだけ食べましたとか、トイレ最後何時に行っていますかとかは、急いで聞いている事業所は多いですね。先生がよっぽど、本当に大変なことがあったとき以外は流れ作業だというのが分かっているので、「あ、すいません!」みたいな感じで呼び止めていたりとか。聞いている感じは見たことありますね。
Gさん	なんか養護学校の先生の方が細かく教えてくれますよね。優しい。
Eさん	優しい。
Gさん	で支援級の先生は本当に、すぐ保護者…
Eさん	支援級の方が情報を仕入れにくい…支援学校の方がまだ丁寧なのかなっていう。
Gさん	聞いたら教えてくれる率が高いのが支援学校という感じ…かな。支援級はもう本当に捕まえて聞かないと。
Eさん	保護者迎えの子が終わるのを待てるなら待つ、という感じですね。で先生が開いたタイミングで「すみません、ちょっと聞きたかったことが…今大丈夫ですか」みたいな感じはあります。「これだけは聞かないと帰れない…!」みたいな(笑)支援級はありますね。
Hさん	食事に関するってことだけど、食事以外にも今貴重な話が出てきたけど…
質問者	はい!ちょっとこう、食事とか排泄とか、項目ごとにお伺いしようかと思っていたのですが、そうでない方がお話が出てきそうだな、という雰囲気を感じたので… 一応、ご返却させていただいている調査票の3番の枠…「食事・意思表示・移動・排泄・更衣の支援」など生活に関わるようなことに関して、「もっとこういうことを教えてほしい」とか「こういうことは伝えてもらっているけどもうちょっとこういうことも…」みたいなご経験がありましたら教えてほしいです。
Aさん	もっとぼやっとしたのになってしまうことになるかと思うのだけれど、「学校が放課後等デイサービスをどういう風に考えているのか」というか、「どこまでの情報が放課後等デイサービス事業所に必要なのか」という考え方がどうなのか、どう思っているのか

	<p>などというのがあって。</p> <p>私たちは支援計画を立ててこういう風にしていきたいと思って、情報をいただきたいと思っているけれど、そういう事業所ばかりではないから、学校の先生も「そんなに、放課後等デイサービスだったら別に…食事のこととかそんなに教えなくてもいいんじゃないかな。」くらいの感じで、もしかしたらいるかもしれないし。こっちも学校がどれほど教えてくれるのか、まったく情報共有できていないので、学校がどんな計画でこの子を支援しているかもよく分からない。お互いが分からない状態だから、そこをまず改善しないと…。先生の方も「あ、こういうことでやっているのだったら色々教えなきゃ!」と思ってくれるかもしれないし。そこからできていないのだろうなと感じます。</p>
質問者	<p>今、おっしゃっていただいたようなことが文部科学省と厚生労働省からも報告が出ていて。学校側もどのくらい伝えていいのかわからない、事業所の状況を知らないで、何を協力したらいいのかわからないということがあるよ、という風な報告が出ていて。それもあって今回「放課後等デイサービス側の方々は学校に対してどのような情報を求めているのか」とうのをまず知りたいなと思ってやらせていただいているのですが…。多分、特別支援学校について学んでいる側の主観としては、あんまり放課後等デイサービスのことを知らない状態で学校に入っているのも、本当に引継ぎの時に何をどこまで伝えていいのかわからないという先生が多いのではないかなと…</p>
Hさん	<p>何を伝えていいかわからないというのは、それはそれで、そうなんでしょう。こっちはさっきの話でいくと、聞いているのに「ちょびとです」とかさ。こっちは聞いているのに、と反論したくなるよね。</p>
質問者	<p>多分その「ちょびと」というのも、先生方は十分伝わっていると思っているのかもしれませんが。私も支援学校Aに行くと、Gくん(利用児童)の引き継ぎを見た時に、「中の下です」という風におっしゃっていて。</p>
Hさん	<p>それは何が?</p>
Gさん	<p>情緒です。その日の様子?先生から見たGくん(利用児童)の様子というか、情緒。</p>
Hさん	<p>中の下はどうなの?</p>
Gさん	<p>ヤバイ、みたいな。身構えておく…みたいな。あるよね。</p>
質問者	<p>そうなんです。そういう風に聞くと、多分「え?どういうこと」となると思うんですけど、多分学校の先生はそれで伝わっていると思っている…。多分福祉的な知見がある人も限られているので…。「中の下です」ではなくて、もっと具体的に「こういう場面でいつもより(情緒が)崩れていました」という情報が欲しい、みたいなそういうお話をお伺いしたいという…感じなんです。</p>
Gさん	<p>どこが中でどこが下かわからないよね。トイレが下だったのかもしれないし。聞き返したこともある気がする、「何がですか?」って。そしたら、「こういうことがあって…」って。「あ〜!それは中の下です!」ってやり取りをした(笑)。一回やり取りをしたから、その後の引き継ぎでも分かるけど、やらないと分からないから…。こっちも言われて分からなけ</p>

	<p>れば聞き返すようにして。</p> <p>でもやっぱり全体的に支援方法とかについては学校でやれる範囲と私たちでやれる範囲、しかもこの法人は放課後等デイサービスの中でもかなり細かく支援をしていると思うから、というそのバランス？小学校の支援級だとトイレは変えてもらえないとか。パンパンのおむつで着くじゃないですか。</p>
Eさん	<p>支援級 C だと、普通に「最後トイレに行けていなくて、もう(紙パンツが)パンパンだと思うのでよろしくお願いします。」って言われるんですよ。「えっ、分かっているなら変えてから来てもらってもいいですか…」みたいな感じで…。それでトイレトレーニングなんですか？みたいな。HIくん(利用児童)はたいていパンパンで引き継がれるみたいな。</p>
Gさん	<p>でランドセルに1個パンパンの(紙パンツ)が入っている。</p>
Eさん	<p>入っている。結局、トイレ行ってないじゃんっていう。紙パンツがパンパンになるまでトイレに行っていないで、パンパンになったタイミングで変えているだけなので。トイレトレーニングもへったくれもない…</p>
Fさん	<p>「忙しくて連れていけません。」とか言われるんですよ。「何時に行ったらいいか行っていない」とか。親がもう心配で、「迎えの時にトイレいつ行ったか聞いておいてください」と言われることも最近多いかな。</p>
質問者	<p>それは支援級ですか？</p>
Fさん	<p>支援級で。</p>
Eさん	<p>支援級にどこまで求めるかという話にもなっちゃいますよね。学校なので、多分トイレ介助的なところは、自立しているのが条件なのかなと思うんですけど。支援級はトイレに関してはかなりひどい。</p>
Gさん	<p>うん、支援級はひどいと思います。小学生は特に。で、中学生は、ないから。支援級の中学生で紙パンツの人はいないから、そういうのはないけど。事業所 c にいた時に「また汚れたおむつが入っている…」みたいな。捨ててもらえない、学校で。「女子のナプキンも持ち帰るの?」とか思っちゃいますよね。</p>
Eさん	<p>紙パンツだけは多分ないんだろうなあ。事業所 a にいた時、IIちゃん(利用児童)が1年生で入ってきた時、荷物開けたら(紙パンツが)入っていて、「えっ?!」みたいな。</p>
Hさん	<p>衝撃的だったよな。</p>
Eさん	<p>衝撃的でした。使用済みの紙パンツが普通のビニール袋に包んだ状態で入っていて。あんな真新しい綺麗なランドセルに突っ込まれているのが衝撃的すぎて。保護者と約束で、双方で OK になっていることなのかな、とは思っていますが、なんかもうちょっとなかったのかなと。</p>
Gさん	<p>せめて二重にしておくとかね。</p>
Eさん	<p>それか専用の臭わない袋とか。それ専用の手提げ鞆を作るとか。なんかもうちょっとやり方があったのではないかなと。あれは本当に衝撃でした。</p>
Hさん	<p>ちゃんとケアしてくれる支援級もあるの？</p>

Gさん	ケア…
Hさん	支援級Dは?
Aさん	J1くん(利用児童)は…やってもらえていないですね。「最後トイレいつ行きましたか」と聞くと、「大体お昼過ぎくらいには皆行っていると思うんですよね」みたいな。
Eさん	「自分で行っていたと思います」みたいな感じも。
Gさん	そのレベルなのか…と思うと他のこともこっちも聞きづらくなっちゃう。トイレがその状況だと他のこともやってもらえていないだろうなと思っちゃうこともある。
質問者	みなさんは個別支援計画を立てるときは、いろんな情報を集める必要があるかと思うんですが、学校に状況を聞いたりすることはありますか。
Eさん	学校にはしたことはない…
Hさん	直接はない…んでしょう?保護者を通して学校ではどうですかというのはあるでしょう。
Aさん	はい。
Gさん	そのワンクッション。こう(学校へ真っすぐ)いきたいけど、こう(保護者を経由)みたいな。
質問者	あ、こう(学校へ真っすぐ)行きたいとは思いますが。
Gさん	気持ちは。だってやっている人に聞くのが一番だと思うから。お母さんによっては変換されてしまうこともあるから。
Eさん	あんまりできていないけれど、「ちょっとできてますよ」みたいな感じで言われちゃうと…「本当か…?」みたいな。
Gさん	その逆もあると思うの。できているけど、見てほしいから「できていない」というお母さんもいる可能性だってあるし。実際にしたことないからわかんないけど。やっている人に聞くのがやっぱり一番いいんじゃないかな、って思う。
Dさん	保護者で面談した時に、「学校でのプランはこんな感じです」って見せてもらったことがあって。すごく細かく、1年間の計画とか、こういう手作業やりますとか。すごくわかりやすく。保護者が間に入ってるの共有でしたけど、そういうのが見れると、うれしいなど。支援計画にも活かさなきゃ!と。
Aさん	引継ぎの時に、時間がないとか、いろいろやっぱりお互いあるので、連絡帳の共有みたいなことができるかとか。学校での連絡帳と、こちらのも見ってもらってという…やり取りが少しでもできると、「あ、ここに気を付けているんだな」とか、お母さんのコメントであったり、今日こういう状態だったんだなというのが。個人情報とかがあるから勝手に学校の連絡帳を見ていいのか分からないし、それが公認になってやり取りができれば、少し歩み寄れるのかなっていうのがあって。
質問者	まさに後ほどお聞きしたかった質問で、もし学校と放課後等デイサービス間で連絡帳があったら、活用したいと思いますかというか、どのような形であれば活用しやすいか、そもそも活用したいと思うか。読む時間が…ということもあたりするのかなと思うので

	すが、どうですか。
Hさん	保護者も入って1枚でいいじゃん。併用事業所もみれる。
Gさん	あったらよむ。時間とかは作ればいから。
Dさん	給食とかは、保護者から「学校の見ちゃっていいですよ」みたいなお話しいたいて、見たことはあります。
Eさん	<p>A1くんのところは、もうちょっと本人が授業中どうだったかということも書いてあることがあるから、週5日毎日来てるんですけど、「お手数ですが本人の様子を知るために学校との連絡帳はみてください」と逆に言ってもらっているんで、学校の連絡帳は必ず来た時に見させてもらったりはしていて。</p> <p>支援学校Aの児童の保護者、K1くんとかB1くんあたりなんかは、(放課後等デイサービスの連絡帳に保護者から)結構トイレのことがいつも細かく「うちがでてません」みたいな。「こういうときって…」とお母さんに言ったら「もし分からなかったり、気になるときは学校の連絡帳みてどうぞ」という風に、保護者の了承を経て見させてもらっている児童もいます。</p>
Hさん	学校の連絡帳にはご飯どれくらい食べたとかトイレはどうだったとかきちんと書かれていますってこと?それが引継ぎで口頭になるとちゃんと言われなくてこと?
Eさん	そう…だと思います。学校の先生は保護者とのやりとりさえできていればいいという感覚があるのか、(連絡帳を)見せてもらうと、何時に紙パンツで成功したとかトイレで成功したとか、排便が何時何分にあったとか、細かい時間軸のところにちゃんと書いてあるんですよ。最終トイレも何時何分みたいな。でも引継ぎになると、「あ〜何時だったかな、多分1時くらいです」という感じで。保護者とのやりとりで書いてあるから、ここでは引き継いでもらえない…。
Hさん	書いている先生と引き渡しをする先生が違うってことは…
Eさん	ありえます。連絡帳も多分、支援学校Aとかだと複数担任で、今週は何か先生だったな、みたいな。翌週になると違う先生になっているので。
Hさん	どんな先生が連れてくるの、担任とか?
Eさん	基本的に担任の先生?が連れてきてくれます。
Hさん	こっちは誰が担任で誰が介助員かわからないじゃない
Eさん	いつもと違う先生が連れてくると、「僕今日このクラスに入っていないので分からなくて」という時もあります。「ちょっと聞いてくるので待てますか」みたいな感じで聞いてくれる先生もいます。「すみません、ちょっと分からなくて…じゃあ」という感じでいなくなってしまう先生も。聞けなかったな、連絡帳みたいな、でもここの保護者から了承得ていないしなみたいな。
Aさん	連絡帳を見ることをまずやっていいのかなのかということ、学校にも見ていることは知ってもらいたいというか。そういうのがちゃんとできていればいいなと思う。
Hさん	契約の時に保護者の許可取ればいじゃない。

Aさん	はい…。もしそういうのがあればいいなと思っています。
Hさん	絶対に見ないでください、お任せします、見て下さいみたいなチェックをしてもらってさ。契約の時に、「絶対にうちの子の学校からの連絡帳は見ないでください」というお母さんいるの？
Aさん	聞いたこともないですし…。逆にこっちの連絡帳も先生に見てもらいたいと思うくらいです。そうすると、こっちが何を知りたいのかも分かりやすいのかなど。
Hさん	多分見られてるよ(笑)。
質問者	ちょっと関連して、学校の方も個別の支援計画とか、教育支援計画を立てているのですが、そういったものは見たいとか、直接共有してほしいと思ったりしますか。
Aさん	あ～見たい。
Gさん	見たい。何してるのかなって。
Hさん	読み書き計算がどれくらいできますかっていうのを共通した尺度で、今どれくらいですってレーダーチャートみたいなのを、読みは結構できるでも書きはできないって、そういう凸凹が知りたい。
Eさん	気になる。具体的にこの子に対してどんな感じの声かけで、トイレはどのような支援の仕方をしているのかとか。
Aさん	そういうのが知りたい。
Eさん	<p>トイレ介助にしても、学校と自宅と事業所で同じように支援をしてあげないといけないというところで、学校ではどういう風な声かけであったりで成功しているのか。なにをもって成功と言っているのかというところが見えてこない。普段事業所ではトイレに行きたがらない L 君の、行きたがらなさ、うんちをした後の動かなさを知っている身としては「成功しています」と言われても、具体的に…どうい声かけでどういところどう成功しているのか知りたいので。</p> <p>食事に関しても摂食指導を受けている子であったり、どうい食具で、どうい食事形態で、学校では食事を見ていて、食べさせているのか…。2年前くらいに支援学校 B の MIさんの食事の風景をご家族から…お父さまが「家ではちゃんと箸を持って食具を持って食べない。事業所ではどうですか。」と。やっぱり手づかみだったりをしていたのですが、「学校ではちゃんとエジソン箸を使って、食具をちゃんと持って食べているんです。」という動画をみせてもらったら、本当にちゃんと上手に食べていて!!本人が離席しないように、食事のテーブルは必ず壁側に座らせて、その隣に先生が付いて声をかけて…とやると良いそうで。「家でもなるべく同じ状況にしようと思います」と。学校でどのような支援をしているのかは家庭も事業所も共有できるといいかなど。</p>
Gさん	そういう環境設定とかもね、どの程度やっているのかとか気になる…すごい気になる。
質問者	そういう、「学校での対応知りたいシリーズ」としたら、他に何かありますか。
Gさん	でもここ(調査票)に書いてあることは割と全部知りたい感じ。食事、排泄、更衣？

Eさん	コミュニケーションは知りたい…
Gさん	うん。
Eさん	児童とのコミュニケーション
Gさん	同じ学年のクラスの子達とどうやって関わっているのか。対大人になる子が多かったりもするから事業所だと。そうならないように努力はするんだけど。やっぱり事業所eの子なんかは特に、(質問者も)分かると思うけれど、レベルが凸凹だから、対職員になる子が多くなってしまう時があるじゃない？
質問者	はい。
Gさん	だからトランプとかでうまいことかき集めてやったりとかするけど。となるとやっぱり同じ学校の同じクラス同じ学年？の例えばその交流級とかで普通級の子と支援級の子が一緒になっている時とかも、その様子、どうやって関わっているのかなとか。本当は見に行ければ一番いいんだけど。その時間どうしてもこっちもない…。どの学校もどの児童も見たいけれど…見れないよね、現実的に、みたいな。
Bさん	前に(質問者)に話したことがあるかもしれないけれど、私B市で働いていた時は、B市の支援学校は学校へ行こう週間という週間があつて。授業参観みたいな感じで事業所が学校に行ける週間があつて。
Hさん	すばらしいね。
Bさん	授業の風景であつたり給食の時であつたり、自由にみれる週間があつて。
Gさん	すごい…。
Hさん	さすがB市。
Bさん	すごくオープンな学校で、卒業式にも出させてくれたり、学習発表会とかも行けたりして。卒業式とかも来賓の席として事業所の席を用意してくれていたりして。やっぱり全然事業所と違う様子を見ることができる。「学校でもおんなじか」という子もいれば、うちとは全然違う「ちゃんと座っているじゃん！」みたいな子がいたり。その子がどういう、例えばパーティーで囲って授業を受けていたりとか、どういう課題をやっているかとかも自由に見ることができたので。そういう、学校がもうちょっとオープンになって、事業所が見に行けるようになると…。逆に学校の先生も事業所に見に来るみたいな環境ができるといいなっていう。
質問者	事業所見学に(先生方が)来たことは…？
Hさん	あるよ。平成 27、28 年は夏休みの期間を利用して、支援学校 A の先生が 1 週間くらい。
質問者	支援学校 A だけですか。
Hさん	うん。先生たちが自分たちで事業所選ぶらしい。事業所dにもいたよな。
Fさん	はい。
Aさん	D1くんが、他事業所を利用している時に、支援学校 B の先生がボランティアか何かでちょうど来ていたようで。支援学校 B もそういうのはあるのかも。

Hさん	じゃあまだあるんだよ。うちは敷居が高いのかも。(自らをネタにして)うるさいのがある…って。
一同	(笑)
質問者	法人としてはこれまで、学校に見学に行ったことはないですか。
Hさん	学園祭とか体育祭に行くことはあった。
Aさん	昔支援学校Aに、NIちゃんが個別活動をしている様子を見に行っていたことがある。何で行ったんだろう。
Hさん	支援学校Bの文化祭行ったな。OIさんとかがいた頃に。すごいやらされてたよ。「そんなだったらやらなきゃいいじゃない」というくらい。それで気持ち崩して(事業所に)来るじゃない、練習がきつくて。
Eさん	<p>ありましたね…。</p> <p>私支援学校Aの体育祭と文化祭は行きました。あと学校の方で、当時事業所αにいた時の、PIくんのケースカンファレンスを学校でやったときに、「授業の様子見ていただけますか。」という風に声をかけて頂いて、その教室の中まで入らせてもらって。PIくんと、QIくんも同じクラスで教室にいたのですが。その時驚いたのが、PIくんがちゃんと学校の机といすに座っておとなしく遊んでいて。席に座って何かをしていることが…事業所にいたときは誰かを他害をするか、キーキーしていることが多かったの。一定の時間ではあるけれどきちんと座って遊んでいるのかという。事業所とは違う姿…。QIくんはここにいるのと変わらなかった。</p> <p>文化祭なんかは先生たちがもう多分集大成なので、「やらせなきゃ」っていう。どちらかという子どもたちが先生の勢いにおされて崩れている…(笑)。PIくんが先生2人がかりで腕と足を持って逆さづりで体育館に連れていかれる姿と、FIちゃんが箱に入れられて大泣きして連れていかれる姿を見ました。「出番だからあ！」みたいな感じで。普段見れないRIくんとかSIちゃんとかが、傘持って「わ～」って。「あんな楽しそうにやるんだ～！」って。</p>
Hさん	SIちゃん卒業式もなんかちゃんとやっていたよな。
Bさん	あ、指揮者。
Aさん	そう、指揮者やっていました。手を振って。
Eさん	やっぱりなんか普段と違う様子が見られるのは、こっちもなんか新鮮な、新たな気持ちでみれるので。「こういうこともできるんだ!」ということを知れると、またちょっと変わってくるのかなという感じも。
Aさん	さっき言った、NIさんの様子を見に行った時に、(体幹の特性で)だらんとなってしまうから、一人では座れないのだけれど、ベルトをカチツとされて座ってやっていたの。そういう、学校では設備とか環境が整っているっていう情報とかがあれば、同じようにはできないかもしれないけど、工夫が、どういう工夫が事業所ではできるかなということが知れるから、行けるのはありがたいなという。

Hさん	そうだなあ。でもB市のシステムはすごいね。
Eさん	気兼ねなくというかね、普通に入れるというのがすごいうらやましい。
Gさん	計画相談支援員の方から聞いたんですけど、今年から支援学校 A が学校公開日？年に3回前にやっていたのを、コロナで中止していたけど今年から再開したらしいよって。この間7月行ってきたみたいで、今度も行こうって言ってました。
Hさん	それはどこが対象なの？
Gさん	あ、もう、皆さんです。支援学校 A のホームページに日程が出ているから、その日は自由に出入りしてよって日が。
Hさん	あ〜…そんなのお知らせしてくれなきゃ分からないよね。
Eさん	でも学校はお知らせしてくれないですね。
Gさん	そう、してくれない。私も聞いて「そんなのあるのですか?!」って。そういった情報よく頂くんですけど、支援学校 A は今年から再開だそうで。支援学校Bとか他の支援級とかは、ない。ただ、去年中学校の陸上記録会？を保護者から聞いて、勝手に見に行っただけはあります。
Hさん	うちだけだろ？
Gさん	はい、事業所はうちだけ。あと、Tくんのお母様がいらっやあって。でも公認ではないから、小さく隠れて。でも児童にバレちゃって、「や、ちょっと見たくて」とか言って。競争心のない Uくんはとりあえず歩いて、スタートから歩いて一応ゴールをする、みたいな。「すごい！頑張ってる頑張ってる！」みたいな。Tくんとかも「何メートルも走れなかったのに…」ってお母さんウルウルされていて。本当に、ここでは見れない様子だから、見たいよねって思っちゃう。
質問者	一応、学校公開日みたいなものは、意外と県立の学校も設けていて。ただそのお知らせが、保護者とホームページだけみたいな。ホームページにたどり着いた人は行けるみたいな。あまりこう、PRされていない側面はあるのかなと思います。
Gさん	来てほしくないのかな。
質問者	うーん…。
Hさん	役所と一緒に申請主義なんだね。
Eさん	昔、支援学校Bは新年度必ず事業所が集まる日ありしたよね。児童のことではないんですけど、学校のシステムというか、登下校の約束事だったり、災害の場合にはこのような手順で保護者に連絡がいったって、休校とかそういった情報を流しますというのを。大体4月とか5月くらいに、全事業所に参加をお願いします、みたいな。校長先生と教頭先生が最初挨拶に来てくれて、多分地域支援課の先生が色々説明してくれて。児童のスムーズな引き渡しにご協力をお願いしますみたいな会はコロナの前はありました。そういう時に公開日とか教えてくれたらいいんですけど、それはなかったの。
Gさん	今は封筒でもらいますよね、4月の頭に。
Eさん	そう、コロナになってからは多分集まるのではなくて封書で、一斉配布でおしまいって

	感じ。
質問者	ちょっとお話が戻ってしまうんですけど、調査票の中で、唯一「不足」という回答がなかったものがある。それが発作に関する学校との情報共有だったのですが、「まあまあ足りてるな」という項目はあったりしますか？逆に十分にもらえているなという…
Gさん	これ(調査票が)発作がある子限定だからというのはあるから…。発作がある子はみんな注意してみるじゃん。命に…発作が命にかかわることはないけれど、二次的なもので怪我とかにつながるものだから。「発作があってここ打っちゃいました」とか。NIさんなんかもそうだよな？学校で怪我したとかね。
Dさん	そうですね。先生によってきとうに言っているなというのがありますけど、でも必ず言っはくれます。
質問者	怪我とか、そういった関連とかはどうですか。
Eさん Gさん	(同時に)怪我はねえ…。
Hさん	良いリアクション(笑)、怪我はね、「学校の先生が保健室から保護者に連絡しますという話になっています」って、管理者とか児発管とかが(Hさんに)報告しても、信用ならないから先回りして保護者に連絡するように言うと、それを10件やると6件か7件は「まだ聞いていない」「まだ学校から連絡が来ていません」という方が多い。
Gさん	怪我は教えてくれないねえ。
Eさん	引継ぎの時に、例えばあざを見つけたりとかして、「先生これって朝からありましたか」って聞くと、「あ〜どうだろう、分かんないなあ」って言われることもある。学校でもいつできたのか、朝からなのかってところが分からない怪我とかあざはあります。
Fさん	かみつきもそうですね。あきらか、見るからにすごいついていても、「わかんないですね」って。「ええ？」みたいな。
Gさん	支援級ですか？
Fさん	支援学校。支援学校A。
Gさん	支援学校Aで!?
Eさん	え〜誰?!6年生?
Fさん	V1くんです。
Eさん	ああやっぱり。V1くんのところの担任の先生って、あそこ結構ずっと持ち上がりできているイメージがある。
Fさん	持ち物とかもすごくだらないです。お母さんはすごくきっちりされているので、必ず入れているのに、マスクないし着替えセットはないし…いろいろなものがなくて。
Hさん	それがうちだと思われてしまうようなことはないの？V1さんの家に。
Fさん	あ、それはないです。もう、学校から帰るときにないって分かったらお母さんに電話を入れておくようにしているの。「うちは絶対に入れました」とお母さんがおっしゃるので。

質問者	じゃあ結構怪我は「言ってよ…」という感じの情報に入りますか？
一同	はいります。
Eさん	つい最近だと、こっちも聞かなかったのが悪いのですが、支援学校Bで引き継いできた児童が顔に絆創膏をはって。基本的に絆創膏をはるようなことが無くて。家にお送りした際にお母さんも「あ、どうしたの？その絆創膏」みたいな感じで。「すみません、学校の引き継ぎ時にはもうつけていて、ちょっとこちらで確認が取れなくて…」とお伝えしたら、「あ、じゃあ学校かな！連絡帳見ればわかると思うので～」ということがあって。あきらかな、手当てをしたなら言ってほしいなと思いますね。事業所についてから気づくこともあったりして、送迎車でできてしまったものなのか学校なのか分からなくなってしまう。
Gさん	説明するのにね…。
Eさん	そう。
Gさん	学校からお母さんに(説明が)いけばいいけれど。事業所を介してしまっているから。事業所にワンクッションいれてくれないと。
Eさん	なので学校で聞けなかったときは、保護者に連絡をして、「引き継いで事業所までは到着してしまったのですが、確認したらどこにあざがあって、これって朝とかご自宅でできたあざだったりしますか？」みたいな。「家ではなかったです」と言われたときは、学校で引継ぎ時確認が取れていないことと、事業所に来るまでの間の接触を伝えて謝罪することはあるので…。怪我とかはもれなく伝えてもらえると…。結局最後保護者と会って児童を引き継ぐのは事業所になってしまうので、学校から言って頂ければ、こっちもそれ以上怪我が無いようにとか、怪我の所を本人がいじったりとかが無いように、安全に過ごして自宅に返せるんですけど。うん、怪我とかは絶対もれなく伝えてほしい。
Gさん	うん、ほしい。
質問者	他にその…「もれなく教えてよ」とか、「それは言ってよ」みたいなご経験がある方は…
Eさん	あ、靴下とか！いつも靴下をはいている子が、事業所にきて靴を脱いだ時に素足だった時があって。結局は見当たらず、お母さんにお伝えしたら「靴下が濡れてしまったので履かせずに帰りました」と学校の連絡帳に書いてあったみたいで。衣類…
Gさん	あと上着ね。これからの時期涼しくなるから…。朝は寒いから着ていったけれど、事業所の引き継ぎの時は暑いから着ていなくて、靴に入っていますとか。
Eさん	入っているのか、入っていないかとか。帰したときに、「あれ、上着は？」みたいな。「上着もったの…？」みたいな。朝持って行ったものの有無とか。
Fさん	全く違う子の上着着せて帰ってきたこともありましたが、学校から。新しい物買ったのかと思ったら違う、みたいな。
Hさん	弁当持たせ忘れて取りに来てくれとかいう先生いるよな。忘れ物、もたせわすれて「取りに来てくれないか」みたいな。
Eさん	支援級Eはあります。「事業所のバックを持たせ忘れてしまった」と言われて、「学校は

	届けに行けない」と言われて。その時はたまたま支援学校 B から事業所に帰る途中だったので、寄って受け取ることができたんですけど。「今回はたまたま事業所への帰り道に寄れたのですが、できれば学校の方で届けに来てください」って言っちゃいました。
Hさん	正論だよ、あたりまえじゃん。
Eさん	支援級 E は、支援級ができたばかりということもあって、いろいろあるなど。長く通っている子がいる支援級だと、「水筒もたせわすれちゃったので、今から届けに行きたいのですがいますか？」みたいな、逆に先生が事業所に職員がいるか確認してくれる。そういう先生もいる。
Hさん	いるいる。支援学校 A の進路担当の先生なんて「あ、(当該法人名)忘れ物届けに行ったことあるですよ～」って。
Gさん	直近であつたんですよー。
Eさん	あ、そうなんですネ。
Gさん	支援級Fの W1くんなんですけど、本人が「水筒忘れちゃった、どうしよう、どうしよう。」ってなっていて。「じゃあ、学校に連絡するね」と言って連絡して。もちろん、W1くんが注意散漫なところはあるけど、引継ぎの時に「忘れ物ない？」ってこっちの職員も確認していて、本人も「ない！」って言っていて。でも来たら、ないってなって。で、電話したら女性の先生が出て「あ、ロッカーにありました、取りに来てもらえますか？」って言われて。「こちらも確認していますし、活動中なので、届けてもらうことは可能ですか？」って。「あ、私は届けられないので、保護者に連絡してもらえますか？」って。「学校での忘れ物なので、学校さんから保護者に連絡してもらってもいいですか？」ってこっちも言い返して…(笑)。そしたら別の男性の先生が「届けに行くよ」って言ってくれたみたいで。
Hさん	「届けられない理由は何ですか？」って。
Gさん	でもその後届けに来てくださった先生はすごくいい方で、「すみません！」みたいな感じだったので、うちも「すみませんでした～」って。
Fさん	支援級 B も同じことあります。「行けないです」って。で、お母さんに連絡したら、(先生が)「なんで保護者に連絡するんだ」って。
Hさん	それは結局学校が持ってきたの？
Fさん	持ってきました。
Eさん	支援学校Bの先生は、(当該事業所名)が色々な事業所があるから、この間X1くんの担任の先生が荷物を持たせ忘れてしまって、「次、15:00 の中学部の下校時間に(当該事業所名)さんいらっしゃいますか。」って。「あ、いきます。」って言って。「じゃあそちらの事業所さんにお渡ししたら事業所 c さんのほうに荷物って回りますか。」って。「あ…回りません！」みたいな。「すみません、事業所 E なので、事業所 c に来ることはないの…」と説明して。「あ、わかりました。すみません、なんか楽しようとして。今から事業所 c さんに届けに行きます！」って言ってくださって。
Hさん	それは、悪くもなんともない。もしそれが可能だったらお願いしてもいいかなっていうさ。

	支援級 E はやっぱりあれだね。支援級 E まだあるの？
D さん	はい…。男性の先生だったのですが、Y1さんが学校でお友達に叩かれてしまったようで、他の職員がお迎えに行っても「どういう状況だったんですか？」って聞いたら、「いや、もうそれは保護者に伝えるので。」って遮られてしまったみたいで。なんか Y さんも涙目で。お迎えの車内で Y さんに聞いて、やっとどういう状況かわかったという…ことがありまして。そんなにバツサリ切られてしまうとこっちも聞けないなって。
E さん	支援級 E 下校時間守らないから嫌なんですよね。
D さん	忘れ物も多いし…。Z1くんも、なんかすごく怒っていて、「なんで怒っているか分からないけどなんか怒っているんです。」という引継ぎがあつて。「あれー？」みたいな。
E さん	支援学校Bの A2 ちゃんは、お姉さんが支援級 E の学校の普通級にいるんですけど、お母さんが支援級の見学に行くと、「ここはちょっと入れられないな」と思って支援学校 B にしたみたいで。保護者の目から見てもちょっと心配に思うんだなって。 だって B2 くん「トイレにこもってしまつて出せないから、ちょっとまわつてもらえますか」みたいな。
G さん	行方不明とかもありましたもんね。
E さん	そう、「行方不明になつちやつて、トイレにこもつてました」とか。
H さん	校長の方針で、当時事業所の送迎車が学校の敷地内に入ることができなかったの。その理由が、「健常の子とぶつかるかもしれないから」。「事業所の車は外に止めてください」って、路駐とかで、雨の日も風の日も迎えに行くと、2 人担いでとかやつてたんだろ？
E さん	やりました。
H さん	でそれを、利用児童の保護者に話して、そのお母さんがアクションを起こしてくれて。じゃあいいでしょうってところまでもつていってくれた。校長の方針で、車を止めていいとか止めてはいけないとか。あそこも昔だめだったじゃん、C2 くんのこと…
E さん	支援級 G。
H さん	いくつかあつたよな。
E さん	支援級 H…。
H さん	そうだ支援級 H!路駐して、1 回 D2 くん降ろして、車椅子乗せて、E2 くん連れて F2 くん迎えに。
G さん	ヤバイ!もう考えられないです今そんなの。
H さん	あれは、うちの運転手の I さんが支援級 H の校長をよく知っていて、話してくれて、すぐ駐車できるようになった。あそこもそうだよな、支援級 I 。
E さん	あー!そう、支援級 I は今も入れないです。私 G2 ちゃんつれて、抱っこして H2 くん迎えに行くとかやりました…。
質問者	今、お話いただいたようなことって、すごく大きな枠でまとめると、「学校とのお話とか情報共有がしづらい学校とか、しづらい先生」っていうものにまとめられるかなと思うん

	ですが、他に、「情報共有を行う上で、難しいなこの学校とか難しいなこの先生」とかって感じた場面はありますか。
A	支援級 J の、以前、送迎のことで、こちらで送迎を組んで 10 分遅れてしまうという連絡を早く分かった方がいいと思って、学校の方に午前中に連絡したら、「それは、保護者から学校の方に連絡をしてもらってください」と。事業所が学校に直接ではなくて、保護者に連絡をしてその保護者から学校の方に連絡をするようにしてくださいと。
B さん	逆に支援級 K の I2 くんは、I2 くんは直接電話かけてきて…
H さん	あったね!そんなの!
A さん	何回かあった!
H さん	卒業式のなんか、練習、役のなんかかかとか。
B さん	そういうやりとりを、事業所を介してやりました。
E さん	I2 くんが変わって下さいみたいな感じですか?
B さん	そうです、で、2 人でずーっと。
E さん	え、電話で?
B さん	そうです。
一同	(笑)
A さん	あとは最近だと J2 くんが事業所をやめるかどうかという、ちょうどそういう時に、支援学校 A の先生から迎えに行った職員に「J2 くんやめるんですか?」みたいな。
H さん	職員 J とかな。
A さん	はい、ただその、新人の職員だったりという子が「そうなんですよ」とかいう話はやっぱりこっちもできないから、「私たちはちょっとできないので、責任者の方に…」みたいな話をしていたのが…2 回くらい聞かれていたから、室長に相談をして。直接担任の先生にどういう状況でこういうことになっているのかを連絡するようにということで、私が担任の先生に連絡したら、地域支援課?の人が間に入ってしまっ。「どういご用件でしょうか。」みたいな。「直接おつなぎはできません。」みたいな、そういう感じで。「私は聞かれたから、今連絡をしているので、直接お話をしたいのですけれども」って。「いやでも、こういう時は私たちが先に」って言うから、「あ、だったら別にいいです。おこうが聞きたいって言うから電話しただけなので。」って言って、電話を切ったら、担任の先生から直接電話が来た。
G さん	…めんどくさっ。
A さん	そういうめんどくさい…(笑)、どちらかというとおっとされる、みたいな感じで、「なんで俺に話してくれないんだ」みたいな。
H さん	それで、担任はなんか、「いろいろ聞きまわっちゃってごめんね」みたいな?
A さん	「すみませんでした。」みたいなそういう。
H さん	結構バチバチやってるね、うち(笑)。

一同	(笑)
Hさん	Gさん頑張ったな、支援級 F。
Gさん	だって…。でも声は荒げていないので、冷静に対応したので、ちゃんとしたはず。やっぱ学校に聞くのは難しいイメージはある、全体的に。計画相談の人に聞いても、「あ、学校ねえ〜…」みたいな。
Eさん	学校が計画相談にさえ教えてくれないってこともあるので。
Gさん	そうそう。
Eさん	なんか計画相談に入ってもらっている意味がないっていう風に思うことがあります。前に、支援学校Bに対して、児童のことについて知りたいとか、支援計画を立てたから学校の方にも共有をという、「あ、うちは結構です。」みたいな感じで学校が計画相談さえもピシャッて。そうなるとうちが本当に共有が難しいと思っちゃう。そうなるとうちが契約して入っている意味というか、児童の利益にならないというか。学校がそこでシャットアウトしちゃうと、「うちはうちでやってるんで」くらいの感じだったみたいで。
Gさん	ありますよね。でもまだ養護学校の方が聞きやすいよね、やっぱり。見る視点が同じくらいだから。支援級は本当に、読み書き計算を多分やらせたい。
Eさん	「学校の先生」って感じ。
Gさん	そうそう。
Eさん	だから、支援的なものを聞いたところで、先生が「？」みたいな感じなので、聞きたい情報が、先生が分からず返ってこない…じゃないですけど、なんかこう…
Gさん	それじゃない、そこじゃないんだよね…とかもある。
Hさん	なんか、Cさんなんかいないの？
Cさん	私ですか…？難しいというか、この先生何？って思ったのは、SIさんのお迎えに行ったときに、先生に「今日もいうこと聞きませんでした。」って言い放たれて背中をポンって押されて引き渡されたときは、何のときにいうことを聞かなかったかにもよる…だろうし、その時は割と事業所αでは切り替えとかがうまくできていたときだったので。「それはあなたが悪いんじゃない…？」とか思いながら。でも別の日は、Sさんが全然その先生から離れなくて、「じゃあ一緒に車に行ってあげるね。」って付き添う日もあったりして。なんか、とっかえひっかえ感情とかでこの先生変わるのかな…？みたいな。生徒ってその先生のこと信頼できてくるのかな…？ってなんかいろいろ考えたり…みたいなのはありましたね。
Hさん	それは…もう推測だけど、いつも、顔なじみみたいな感じなの？
Cさん	そうですね。
Hさん	なんていうのかな、あの、結構こう…親近感が。その先生にとって Fさんに親近感があって、「お互い大変だよな」っていうのを誰かに言いたかったとかそういう捉え方もあるよね。あれだけの大物だからさ。
Gさん	「何のときにですか？」ってもっと聞いちゃえばいいのに。

Cさん	もう、ポンって押されて、行っちゃったんですよ!
一同	(笑)
Gさん	相当溜まってたんだらうね、じゃあ、先生も(笑)。
Cさん	返事もせずに、「あっ、あ」みたいな感じで車に乗せていくしかなくて。
Gさん	そうだね、それモヤモヤするね。
Cさん	はい。
Eさん	先生と顔見知りじゃないですけど、なるべくその、同じ学校に長く行っていると、先生も顔を覚えてくれていたりとかすると、こっちも話しかけやすかったり。先生が名前を覚えてくれていたりすると、すごく話しやすいので。こっちもちょっと突っ込んで聞けることもあるなっていうのはありますね。
Aさん	たまにしか行かないけど、支援学校 A、誰が担任かもほぼ分からないし、こっちも。そのくらい…把握できていない。
Gさん	担任の判別は難しい。
Hさん	名札とかしててもらえば良いのにな。
Gさん	ん~!
Eさん	昔だと、N ちゃんのところが、結構学校の連絡帳とか手紙とか見てもいいという風に言われていて。4 月とかだと、各クラスの担任の先生の一覧があって、「これ、このクラスの先生たちみたいだよ」みたいな感じで話をしたことはあります。そういうのも事業所に 1 部、入れてくれたらうれしいなとは思いますが。しばらく行かないと、1 か月くらいしてようやく「今回この 3 人が担任か」みたいな(笑)。担任を判別するまでが…
Aさん	ちょっと、「担任のなんとかです。」とかあれば…
Eさん	最初の時だと、引き継ぐ時に、「この 4 月から担任になりました」という風に挨拶してくれる先生はいます。
Gさん	いる。だから自己紹介する。
Eさん	全員ではないので…とりあえず、でも 1 クラス 3 人いる中で 1 人でもおさえておけば、なんとかかなるかなっていうので。挨拶してくれる先生はすごく助かります。
Hさん	良い先生もいるんだね。
Eさん	はい。いますね。
Bさん	先生によっては、「(事業所名)さんではどうですか」とか、「(事業所名)さんではどんな感じでやってますか」聞いてくれる先生は、こっちも話そうという気になって、こっちも聞きやすくなる。放課後の支援にも興味を持ってってくれるんだって嬉しい気持ちになる。逆にもっと聞いて欲しいなみたいな。
一同	うんうん。
質問者	では…そろそろ良い頃合いになってきたので、最後に、言い足りなかったことや付け足しをいただいて終わりたいと思うのですが…

Aさん	<p>送迎のことが1番あって、事業所がどんな風に送迎をしているか、多分先生たちは分からない。だから、すごく下校時刻より早く待っている学校があったりとか、逆にこの下校時刻なのに15分くらい待たせたりとか。その後事業所がどんな風に動いているかとか、そういうのを多分知らないと思うから、そういうのを分かってもらったりとか、下校時刻がどれだけ市でかたまっているのかとか、そういう現状を知れば、もう少し送迎に関しては改善できることがあったりとかするのかな。遅れる意味とか。こっちも本当に学校に遅れないように(送迎表を)作っている状態があるっていうのを知ってもらった上で、どうしても迎えに行けないみたいなのところの、許せる…気持ち的にも、学校も、「あ、これだけやってくれて遅れちゃうんだな」みたいなやりとりが上手くできればいいなって。</p> <p>あと、乗せ込みとか。車まで連れてきてくれるのが当たり前って言ったらかわいけれど、そこまでが学校の仕事だよくらいな、そういうのができていくと色々なことがスムーズに回ったりするのか、というのはすごい感じる。</p>
質問者	<p>ちなみに、その下校時刻は、申請書で、お母様お父様に教えていただいているという状況ですか。</p>
Gさん	<p>うん。</p>
Hさん	<p>あ、支援学校A…</p>
Aさん	<p>支援学校Aはくれるんですけど、配れませんっていうところ…どこだったかな、渡せませんっていう、保護者から聞いてくださいっていうところもある。</p>
Hさん	<p>A市の障害児支援は事業所連絡会の力が弱すぎる。事業所連絡会として、市の公立学校に圧力をかけるっていうのは健全なんだよ。本来ね。それが、もう全くないでしょ。だから、やられ放題。放課後事業所連絡会として、学校で忘れ物があったときは学校の責任で届けてくださいよとかね、例えばさ。送迎車は他の学校にも行くから下校時刻は守ってください、こっちも守りますけどとか。それをうちは個でやってるわけでしょ。そこが課題なんだよ。事業所連絡会が弱すぎる。だって、今年何回やったの？</p>
Eさん	<p>まだ1回です。結局次も研修をやるくらいと、合同事業所説明会の話くらいなので、A市の学校との協力体制をどうしようとかそういう話がそもそも議題に出てきていない。</p>
Hさん	<p>そういう問題もある。だから親御さんの力をかりれば良いと思ってる。本来はソーシャルアクションを起こすことは健全なことだから。</p>
質問者	<p>他に、付け足しというか、ある方いらっしゃいますか。</p>
Hさん	<p>Gさんとかどうなの、障害者と障害児両方やってみて、障害児のおもしろさとか大変さとかさ。</p>
Gさん	<p>ん～。児は親がかんでくるから、親御さんの思いとその子どもができるレベルとのギャップがあるなと思います。者になると、とりあえず預かってくれれば、大きくなればなるほど、自分の手元から離れた方が楽じゃないけど、もう、言われた通りにしますみたいな親御さんが多い印象はあります。</p>

Hさん	笑い話だけど、夏一緒に、ほら職員 Kさんがコロナになって、俺が運転して Gさんが添乗した時、いきなり T1くん家でペチャクチャペチャクチャ、ニコニコニココしゃべっちゃって。朝だよ?!「来い!次行くんだよ!」って。どこの家行っても「こんにちは~お母さん元気?」って帰ってこないんだよ(笑)。
Gさん	や~楽しくなっちゃいますね。
Hさん	いや~あれ大事だよ。
Fさん	支援級Bでのことなんですけど、学校にいけない児童、不登校で、何時間目までは出るけどそれ以降はグリーンスクールを利用したい。でも先生の方は、学校の授業時間内になんて事業所に行くんだって。こうだのあだのってすごい言ってきて。最後は校長がこういう風に言うからみたいな感じで。
Aさん	支援級Bはそういう傾向ありますよね。なんか、行事があって疲れているから事業所は行かないようにみたいな。
Fさん	圧力かけてくる。
Aさん	保護者に…。
Hさん	民業圧迫してるね、大問題だよ。それも放課後事業所連絡会がきちんと機能してればな。
質問者	他にありますか…?
Hさん	最後ひとりひとこともらいなよ。Cさん。
Cさん	私も今特別支援学校の勉強をしていて、私は放デイにいますのでこういう情報が欲しいなってすごく思うんですけど。時間ともraitai情報が違うってところを考えた時に、今年度事業所 a が、支援学校Aから 6 人新規の児童が来ていて。最初ほとんど私がお迎えに行っていたと思うんですけど。その時に関してはこっちが何も言わなくても「こうだったんです、あだったんです。」って先生自身も緊張感をもっている。新しい子だし、児童自身も環境の変化でいつもと違う行動が見られるってところで、緊張感をもって伝えてくれていたと思うんですけど。そういうのが他の学年でも出来たら、もっとこっちも満足いくし、先生たちも本当は教えたいかもしれない情報を十分に伝えられるのかなって思いますね。まあでも実際は難しいところがあると思うんですけど。
Aさん	Bさんは?
Bさん	情報共有っていうことは、こっちも伝えなきゃいけない、学校にこうしてほしいってだけじゃなくてこっちもこうしていかなくちゃみたいなのが、難しいなって。この間K2くん家送っていったときに、学校から「手が出るが多かった」と引継ぎをもらったので、お母さんに「今日学校で手が出るが多かったみたいなんですけど…」っていう話をしたら、「そうなんですか!そんなこと学校から聞いたことありません。学校から全然そういう話ないので、何か聞いたら教えてください。」って逆に学校と家庭もあんまり共有ができていないんだなってことがあって。情報共有って難しいなって改めて感じました。
Hさん	Dさん。

Dさん	いい先生も中にはいて、L2さんの先生なんか、「今日突然休んじゃって、電話越しでお母さんが暗かったんで…」って、休んでいたことを知らなかったので迎えに行っちゃって、先生から教えてもらって。お母さんに連絡したら、「車が動かなくなってしまって休んだんです」ってことだったんですけど。なんかいろいろ心配してくれる先生もいて。
Hさん	支援級Lの先生なんて、その昔支援学校Bでピックアップして支援級Lで次の子を乗せるって時にさ、支援学校Bで乗せた子が支援級Lに入ったところで粗相しちゃってさ。そういう連絡があって掃除用具積んで向かったら、先生たちがみんな手伝ってくれて。「いや、いいよいいよ。こっちでやっどくから!」なんて言ってくれて。翌日校長先生に改めてお礼に行ったことがあるからね。ありがたかったよ。
質問者	Eさんお願いします。
Eさん	見ている子は一緒なわけなので、学校の先生と。なので、さっきCさんも言っていましたけど、聞くだけじゃなくてこっちも伝える。どうしたら伝えられるのかっていうところを考えていけたらいいのかなって。お互いに聞いてもらえないよね、言ってもらえないよねって言うだけでは先には進んでいかないので。そういったなにかできるものがあればいいなって。いい先生もいるので、そういった先生に目を向けていけたらいいなって。
質問者	ありがとうございます。Gさんお願いします。
Gさん	情報共有って大事なんだなっていうのは思ったし、こっちも言わなきゃなと思うけど、聞いてばかりだなって思うし。個別支援計画の更新で個別見てて、これってうちだけでやってもなあって思う内容もあったりするから。やっぱり障害を持っている人の支援ってすべてに通じるものだと思ってずっとやってきているから、障害の支援ができれば、どこに行っても通用するかなって思っていて。だって言いたいことが言えない人の思いを受け止めようとしているわけじゃん、それができたらすごい事だと思うの。こうやって言葉でやり取りすればできるものを、カードとか、サインとか、表情、雰囲気とかから読み取らなきゃいけない。その感性が、それが人によって違うから難しく。っていうのがこの障害(の分野)だと思っているから、それがもっと共通認識で、ここだけじゃなくて、学校も保護者も社会もって、本当に全体の問題なんだなってひしひしと感じていて。他の事業所間でも、みんなでも、もっと輪になれば、もっとひとりひとりが見えてくるんじゃないかなって。その人も楽だし、本人も楽だし。すごい漠然としているけど、そういうのがもっと世の中に知れ渡ってほしいなってすごい思う今日この頃…。以上です。
質問者	ありがとうございます。Fさんお願いします。
Fさん	改めて今日みなさんのお話を伺っていて、同じような悩みがあるなというのを感じられてほっとして。反対に先生たちもいろいろな思いがあるんだなってところで、もっとB市みたいな形でA市もなっていければ違うのかなと。これだけ子育てのしやすい街って言う割には、こういう現状があるっていうのが、また改善していければ。いつになるのか…とと思いながら参加させていただきました。ありがとうございました。
質問者	ありがとうございます。Aさんお願いします。

Aさん	<p>やっぱりその、学校と放課後等デイサービス、上下じゃないんだけど、学校は多分何となく放課後等デイサービスのことを下に見ているのかな、なんてそんな感覚もあるから、このくらいの情報でいいんだろうとか、なんかそういう感覚でいるのは払拭したいというか、そうじゃないんだよ、ちゃんとやっているところもあるんだよっていうのを理解してもらいながら、本当に、さっきのB市の話じゃないけど、こちら児童のことを知りたいから学校の公開日みたいなのを設けてもらえれば行くようにして、逆に来てもらうっていうのも、興味を持ってもらうためにも放課後等デイサービスでの児童の様子を見てもらって、なんかトータルで支援ができるようになったらいいなと思いました。</p>
質問者	<p>ありがとうございます。私が聞きたかったことをたくさんお聞かせいただいて、すごく貴重なお話をたくさん、ありがとうございました。これでインタビュー自体は終わりにさせていただきます。最後に、本当につまらないものなのですが、お礼の気持ちをご用意していますので、それをお渡しさせていただきます。解散したいと思います。本日は本当にありがとうございました。</p>